

横手市の現状と課題の分析

令和8年7月
秋田県横手市



目 次

1. 地域経済分析

産業分類について	1
(1) 産業別生産(売上)額	2
(2) 産業別生産(売上)額構成比	3
(3) 産業別修正特化係数	4
(4) 産業別純移輸出額	5
(5) 産業別付加価値額	6
(6) 産業別付加価値額構成比	7
(7) 産業別雇用者所得	8
(8) 産業別雇用者所得構成比	9
(9) 住民への所得分配の状況(地域内所得と地域住民所得の比較その1)	10
(10) 住民への所得分配の状況(地域内所得と地域住民所得の比較その2)	11
(11) 一人当たり雇用者所得の水準	12
(12) 地域内消費	13
(13) 宿泊者数と居住地(日本人)	14
(14) 宿泊者数の推移	15
(15) 宿泊者数の推移(近隣自治体)	16
(16) 観光入込客数の推移	17
(17) 観光入込客数の推移(月別)	18
(18) 観光入込客数の推移(月別)(近隣自治体)	19
(19) 観光入込客数の推移(観光地点別)	20
(20) 観光入込客数の推移(行祭事・イベント別)	21

2. 人口構造分析

(1) 総人口の推移	23
(2) 総人口の推移(将来推計)	24
(3) 出生数の推移	25
(4) 女性人口(15~49歳)の推移	26
(5) 女性人口(15~49歳)の5歳区分の推移	27

(6) 【参考】男性人口(15~49歳)の5歳区分の推移	28
(7) 女性人口(15~49歳)の総人口に対する比率	29
(8) 年少人口(0~14歳)の推移	30
(9) 年少人口(0~14歳)の推移(将来推計)	31
(10) 年少人口(0~14歳)の総人口に対する比率	32

3. 社会増減分析

(1) 転入、転出の状況(県内)横手市	34
(2) 転入、転出の状況(県内)大仙市	35
(3) 転入、転出の状況(県内)由利本荘市	36
(4) 転入、転出の状況(2024)(県外含む)横手市	37
(5) 転入、転出の状況(2024)(県外含む)大仙市	38
(6) 転入、転出の状況(2024)(県外含む)由利本荘市	39
(7) 転入超過の状況(2024)	40
(8) 転出超過の状況(2024)	41
(9) 転入者数の推移	42
(10) 転出者数の推移	43
(11) 転入超過、転出超過の推移	44
(12) 県内の転入超過(R4横手市)の年齢別の状況とR5の比較	45

4. その他

(1) 秋田県内で住みやすい自治体ランキング	47
(2) 秋田県内で住みやすい駅ランキング	48
(3) 冬の魅力度自治体ランキング(2025)	49
(4) 秋田県の市で「老後に住みたい」と思う市ランキング(2025)	50
(5) シティブランド・ランキング2025(北海道・東北)	51

1. 地域経済分析

産業分類について	1
(1) 産業別生産(売上)額	2
(2) 産業別生産(売上)額構成比	3
(3) 産業別修正特化係数	4
(4) 産業別純移輸出額	5
(5) 産業別付加価値額	6
(6) 産業別付加価値額構成比	7
(7) 産業別雇用者所得	8
(8) 産業別雇用者所得構成比	9
(9) 住民への所得分配の状況 (地域内所得と地域住民所得の比較その1)	10
(10) 住民への所得分配の状況 (地域内所得と地域住民所得の比較その2)	11
(11) 一人当たり雇用者所得の水準	12
(12) 地域内消費	13
(13) 宿泊者数と居住地(日本人)	14
(14) 宿泊者数の推移	15
(15) 宿泊者数の推移(近隣自治体)	16
(16) 観光入込客数の推移	17
(17) 観光入込客数の推移(月別)	18
(18) 観光入込客数の推移(月別)(近隣自治体)	19
(19) 観光入込客数の推移(観光地点別)	20
(20) 観光入込客数の推移(行祭事・イベント別)	21

産業分類について

地域経済分析での産業分類は、以下の38産業としています。

No.	本DBの産業分類（38分類）		内 容
1	農林水産業	農業	米麦生産業、その他の耕種農業、畜産業、農業サービス業
2		林業	林業
3		水産業	漁業・水産養殖業
4	鉱業		石炭・原油・天然ガス鉱業、金属鉱業、採石・砂利採取業、その他の鉱業
5	製造業	食料品	畜産食料品製造業、水産食料品製造業、精穀・製粉業、その他の食料品製造業、飲料製造業、たばこ製造業
6		繊維製品	化学繊維製造業、紡績業、織物・その他の繊維製品製造業、身回品製造業
7		パルプ・紙・紙加工品	パルプ・紙・紙加工品製造業
8		化学	基礎化学製品製造業、その他の化学工業
9		石油・石炭製品	石油製品製造業、石炭製品製造業
10		窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業【例：セメント、ガラス、セラミック、等】
11		鉄鋼	製鉄業、その他の鉄鋼業【例：高炉、電炉、鋼材製造、鉄加工、等】
12		非鉄金属	非鉄金属製造業【例：すず、銅、アルミの精錬および製品製造、核燃料製造、電線・ケーブル製造、等】
13		金属製品	金属製品製造業【例：メッキ製品、食器・刃物等の金物類、金属プレス、釘・ねじ等の建設用製品、等】
14		はん用・生産用・業務用機械	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業【例：建設機械、半導体製造機械、工作機械、事務用機械、医療用機械、等】
15		電子部品・デバイス	電子部品・デバイス製造業【例：半導体、液晶パネル、記録メディア、電子回路、コンデンサ、等】
16		電気機械	産業用電気機械器具製造業、民生用電気機械器具製造業、その他の電気機械器具製造業【例：発電設備、家庭用電気機器、電池、等】
17	電気・ガス・水道・ 廃棄物処理業	情報・通信機器	通信機械・同関連機器製造業、電子計算機・同附属装置製造業
18		輸送用機械	自動車製造業、船舶製造業、その他の輸送用機械・同修理業
19		印刷業	印刷・製版・製本業
20		その他の製造業	木材・木製品製造業、家具製造業、皮革・皮革製品・毛皮製品製造業、ゴム製品製造業、プラスチック製品製造業、その他の製造業
21		電気業	電気業【例：発電所、電力会社の事業所・営業所、送配電施設、等】
22		ガス・熱供給業	ガス・熱供給業【例：ガス製造会社、ガス供給所、等】
23	建設業	水道業	上水道業、工業用水道業、（政府）下水道
24		廃棄物処理業	廃棄物処理業、（政府）廃棄物
25	建設業		建設業
26	卸売・小売業	卸売業	卸売業※1【例：総合商社、専門商社、問屋、等】
27		小売業	小売業※1
28	運輸・郵便業		鉄道業、道路運送業、水運業、航空運輸業、その他の運輸業、郵便業、（政府）水運施設管理、航空施設管理（国公営）※1
29	宿泊・飲食サービス業		飲食サービス業、旅館・その他の宿泊所
30	情報通信業	通信・放送業	電信・電話業、放送業【例：公共放送、民間放送の放送局、ケーブルテレビ会社、携帯キャリアの営業所、等】
		情報サービス・映像音声 文字情報制作業	情報サービス業、映像・音声・文字情報制作業【例：テレビコマーシャル制作、レコード会社、新聞社、出版社、ソフトウェア業、インターネットサービス、等】
31	金融・保険業		金融業、保険業
32	不動産業	住宅賃貸業	住宅賃貸業※2【例：貸家（アパート等）、持ち家、別荘、等】
33		その他の不動産業	不動産仲介業、不動産賃貸業【例：不動産会社、デベロッパー、ショッピングモール、貸事務所、マンション管理組合、等】
34	専門・科学技術、業務支援サービス業		研究開発サービス、広告業、物品賃貸サービス業、その他の対事業所サービス業、獣医業、（政府）学術研究、（非営利）自然・人文科学研究機関【例：自然科学研究所、法律事務所、経営・建設コンサルタント業、興信所、動物病院、職業紹介業、ビルメンテナンス業、等】
35	公務		（政府）公務【例：各省庁の地方事務所、裁判所、自衛隊の駐屯地、都道府県や市町村の機関、等】
36	教育		教育、（政府）教育、（非営利）教育【例：幼稚園、小学校、特別支援学校、その他の教養・技能業授業、等】
37	保健衛生・社会事業		医療・保健、介護、（政府）保健衛生、社会福祉（非営利）社会福祉【例：病院、保健所、健康相談施設、社会保険事業団体、有料老人ホーム、等】
38	その他のサービス		自動車整備・機械修理業、会員制企業団体、娯楽業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の対個人サービス業、（政府）社会教育、（非営利）社会教育、その他【例：個人サービス業（美容院、クリーニング店、等）経済団体（商工会議所等）、政治団体、宗教団体、公民館、図書館、学習塾、等】

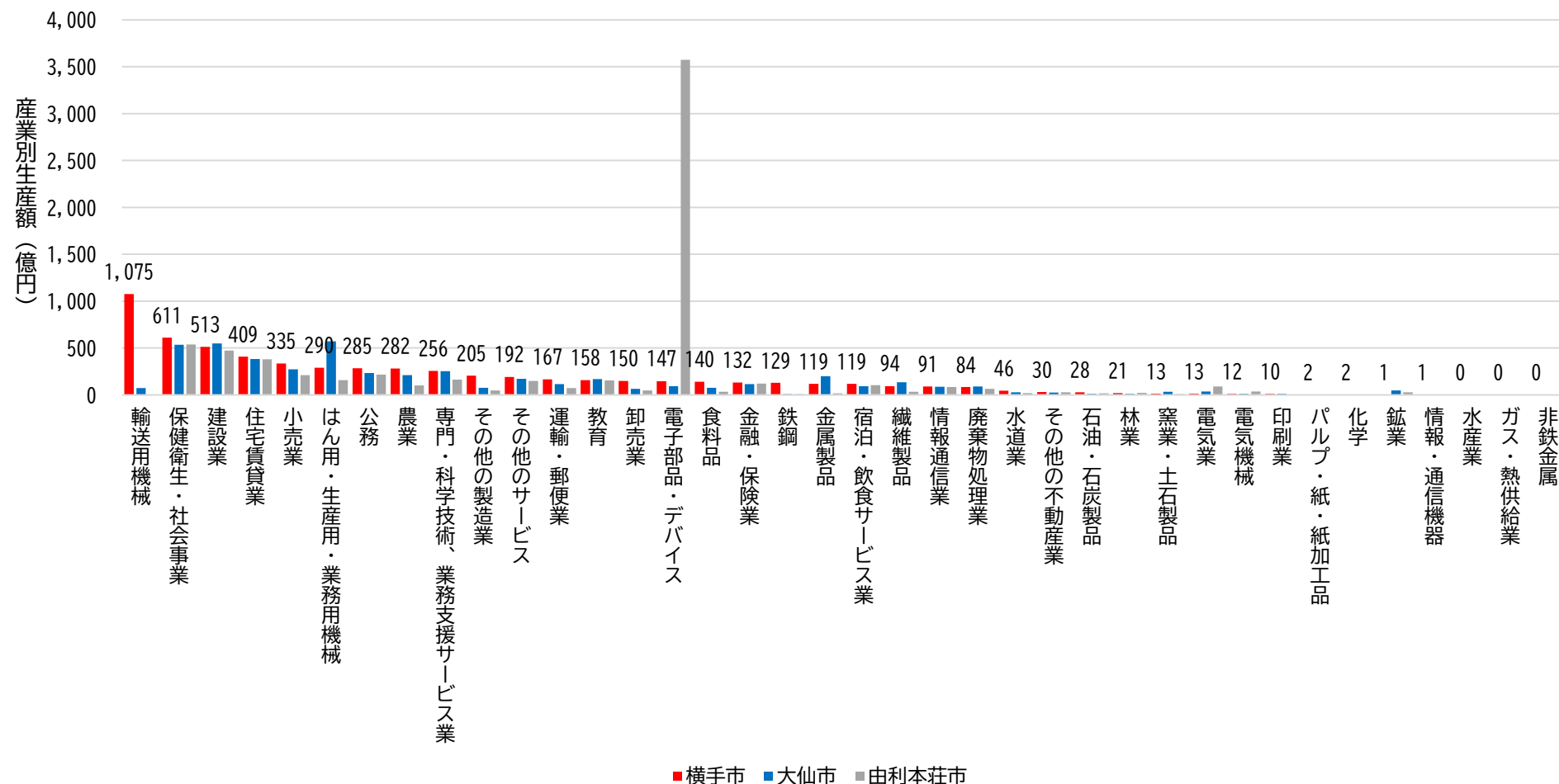
※1「卸売業」「小売業」「運輸・郵便業」の生産額は、店頭価格での売上金額ではなく、物品の金額を除いた、それぞれの産業の売上が生産額として計上される。例えば、店頭で500円で販売している食品のうち、食品そのものの仕入れ価格470円を除いた金額が、小売業の売上となる。

(1) 産業別生産（売上）額

生産（売上）額が多い産業は、生産した財・サービスを地域の内外へ販売して、所得を獲得しており、地域の代表的かつ地域の強みとなっている産業である。

売上額が最も多い産業は輸送用機械であり、次いで、保険衛生・社会事業、建設業の生産額が多い。（令和4（2022）年）

類似団体である大仙市、由利本荘市と比較すると、輸送用機械、保健衛生・社会事業の生産額が多い。

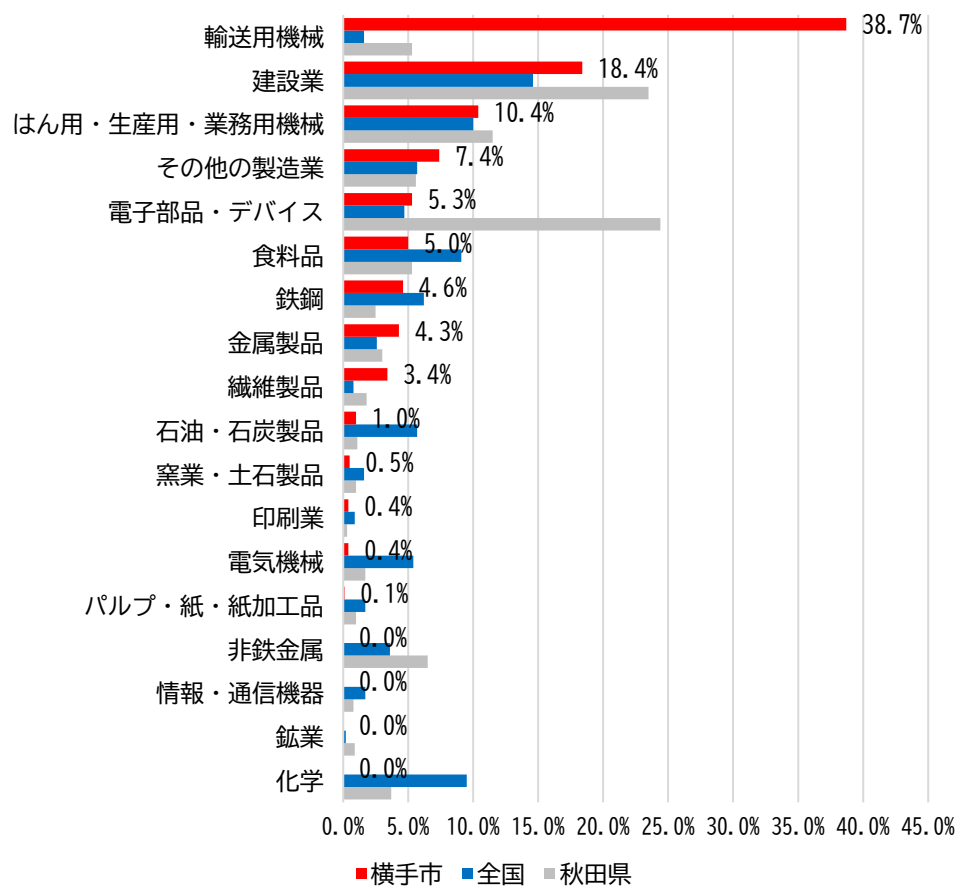


(2) 産業別生産（売上）額構成比（2次産業、3次産業）

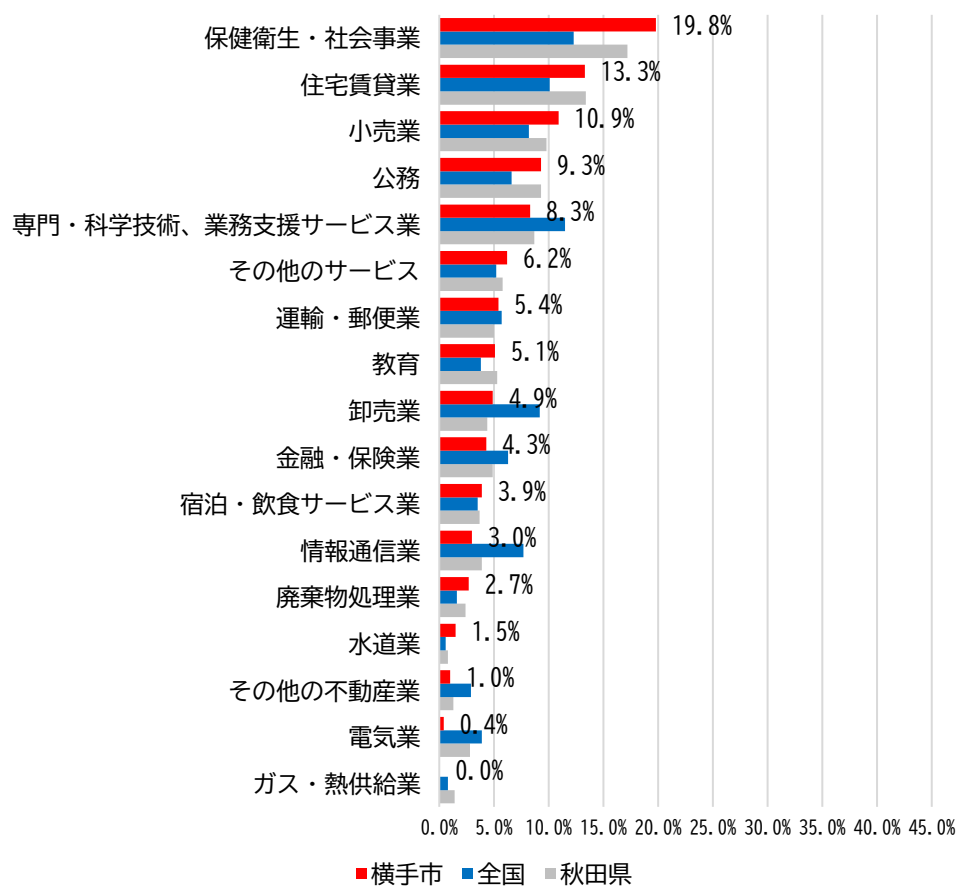
ここでは、地域の産業別の生産額（売上）の構成比（シェア）を全国の生産額のシェアと比較することで、地域の生産額で見た産業構造を把握する。

生産額が最も多い産業は2次産業では輸送用機械、3次産業では保健衛生・社会事業が「稼ぐ力」の大きなウェイトを占めている。全国及び秋田県と比較しても、輸送用機械のシェアが大きい。

2次産業



3次産業

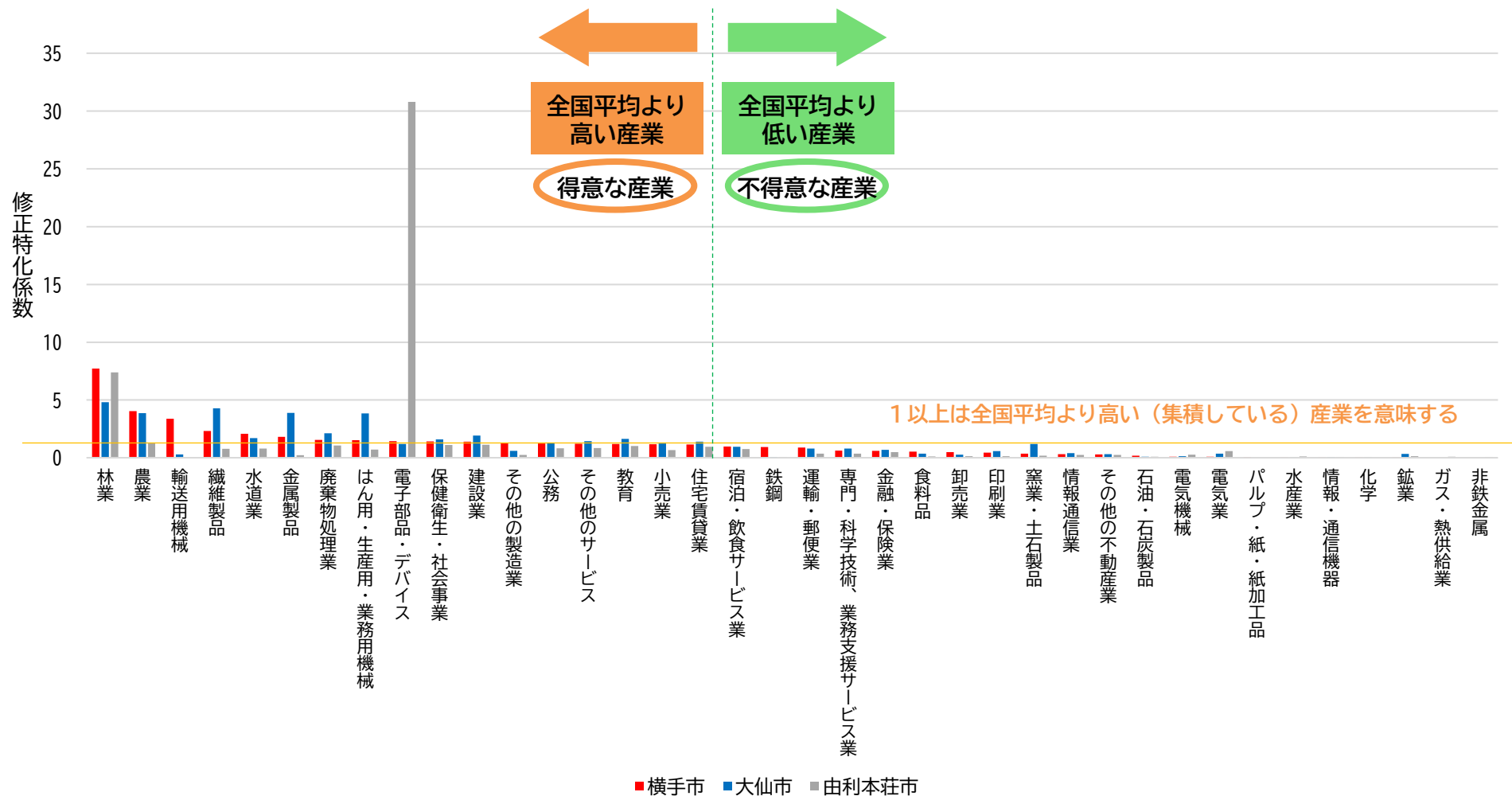


(3) 産業別修正特化係数

修正特化係数は、ある地域における特定の産業が、全国平均と比較してどれだけ「稼ぐ力（輸出・移出力）」を持っているかを示す指標で、地域の中で、修正特化係数が高い産業が地域で得意な産業であり、比較優位な産業である（下図）。修正特化係数は地域の産業別の生産額のシェアと全国の産業別の生産額のシェアを比較し、貿易を考慮した係数である。

当市においては、全国と比較して得意としている産業は、林業、農業、輸送用機械、繊維製品、水道業、金属製品等である。

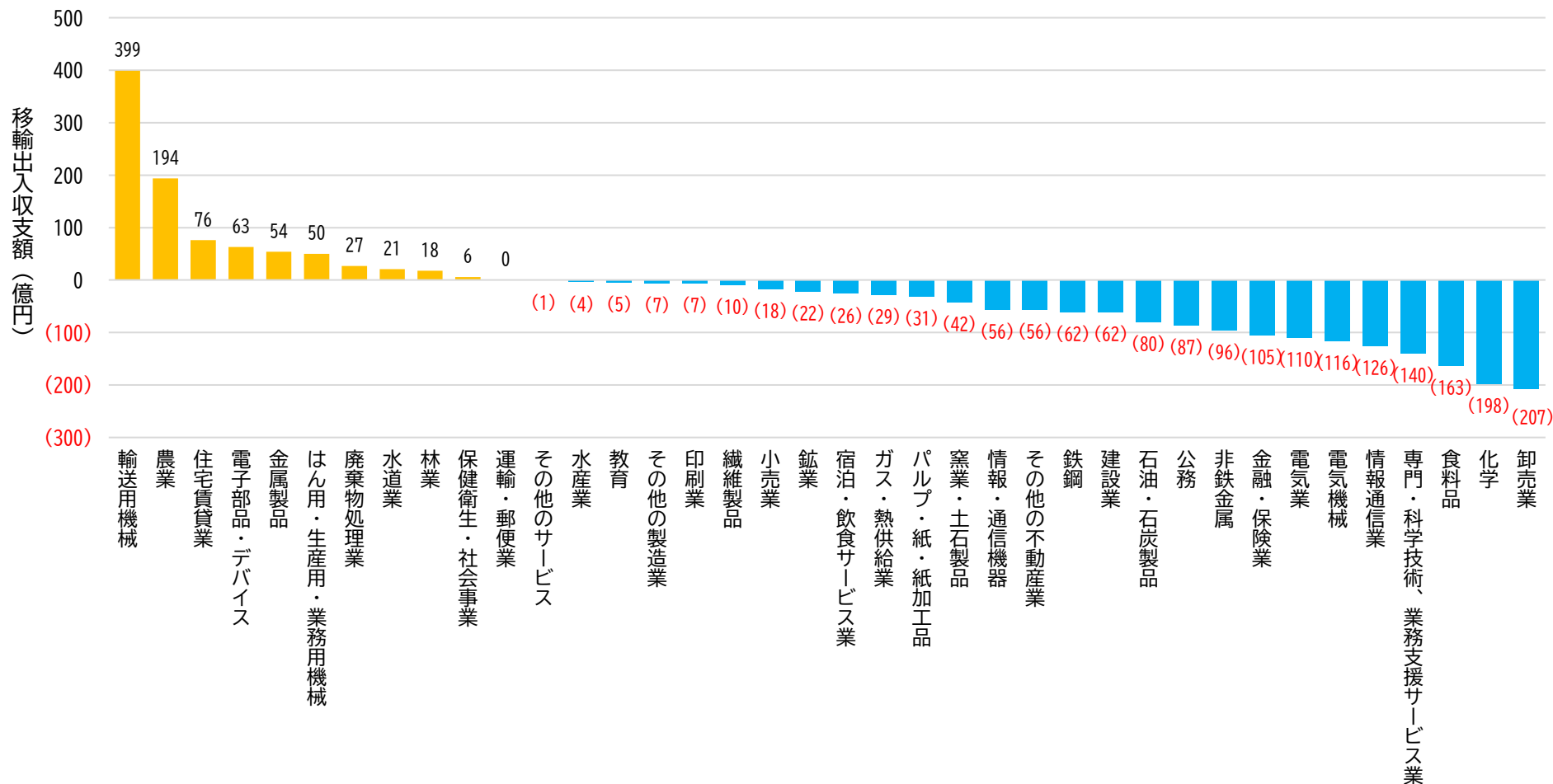
大仙市は、林業のほか、農業、繊維製品、金属製品等、由利本荘市では電子部品・デバイス、林業等となっている。



(4) 産業別純移輸出額

地域の各産業の中で、地域外に財・サービスを販売し、所得をどの程度獲得しているかを把握する（下図）。各産業では地域外に販売（移出）する場合と地域外から購入（移入）する場合があります、その合計値（ネット）としての純移輸出額を示している。

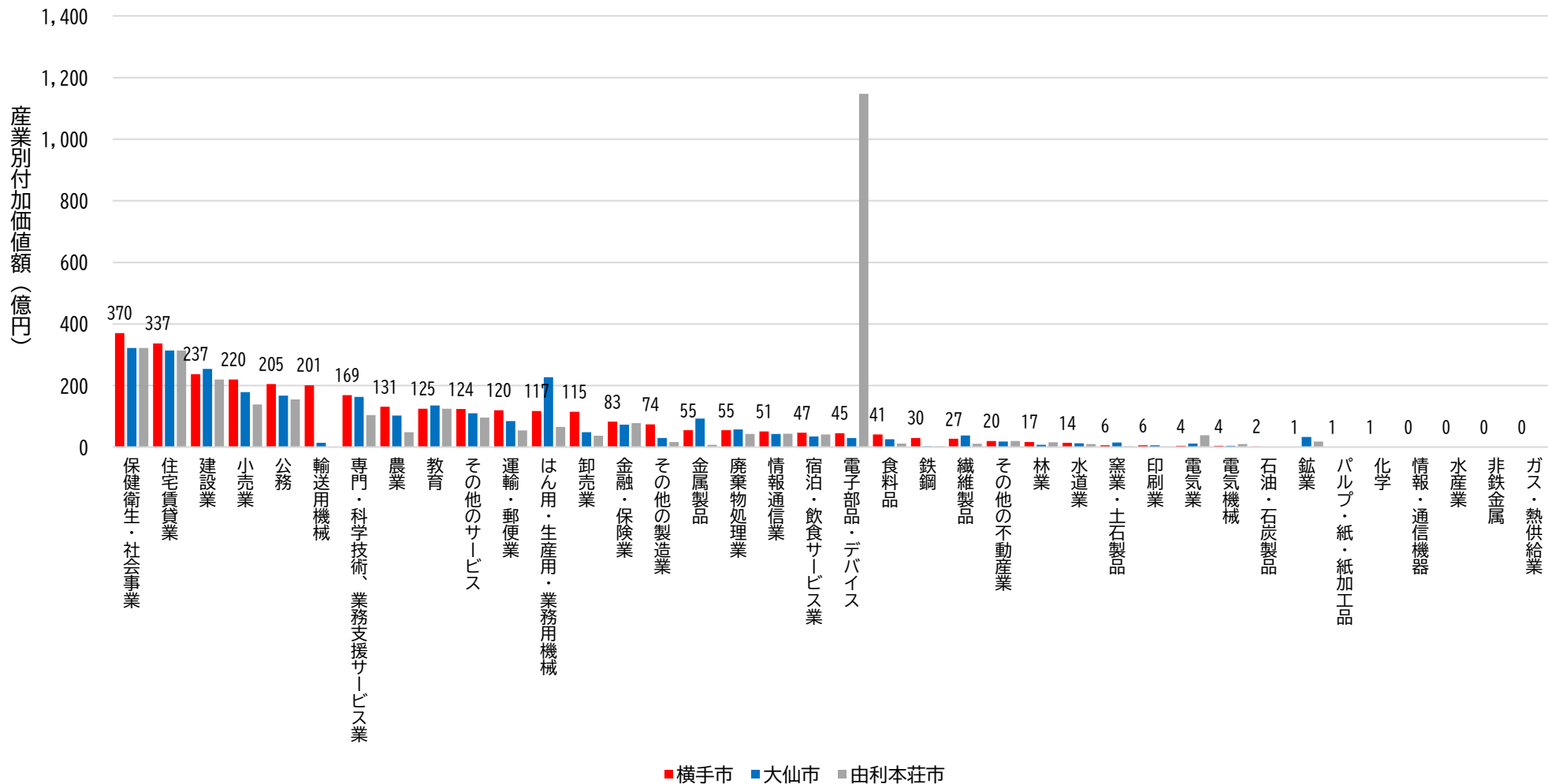
域外から所得を獲得している産業は輸送用機械、農業、住宅賃貸業、電子部品・デバイス、金属製品、はん用・生産用・業務用機械等である。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。



(5) 産業別付加価値額

付加価値額（≡ GDP）は、売上額（生産額）から外注費等の中間投入を除いた額であり、地域住民の所得として計上される金額であり、付加価値額が大きい産業は地域の中で所得を稼いでいる産業である。

付加価値額が最も大きい産業は保健衛生・社会事業で370億円であり、次いで住宅賃貸業、建設業、小売業の付加価値額が大きい。

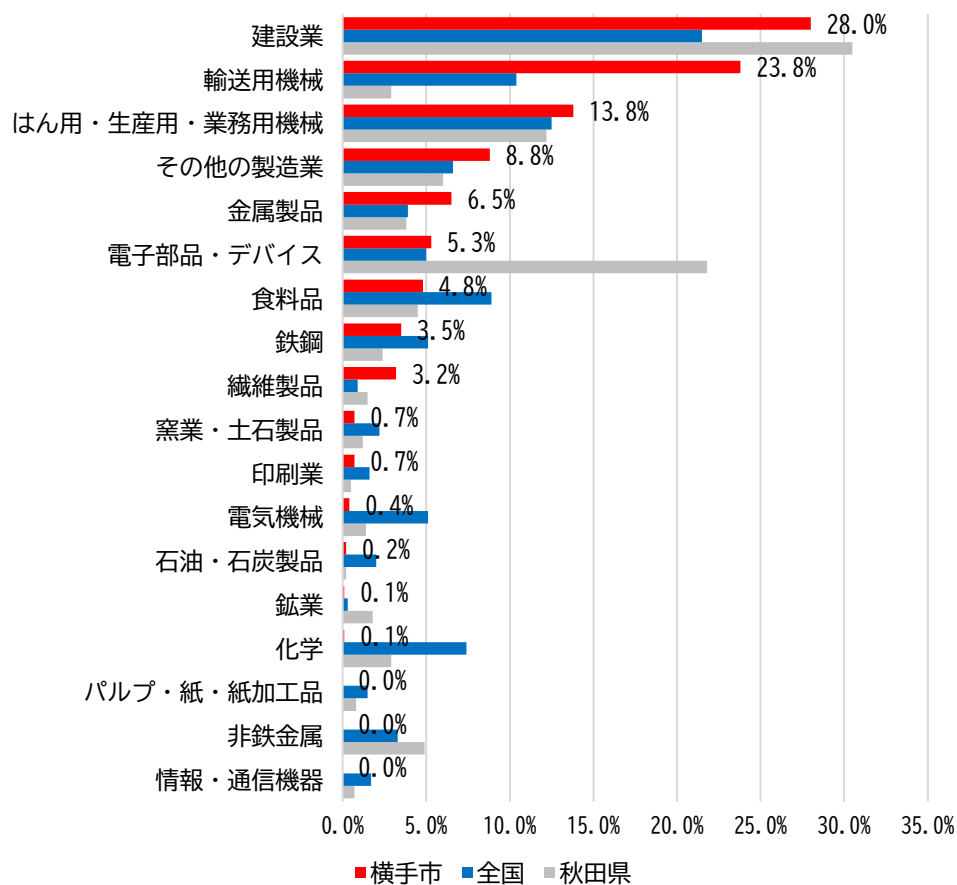


(6) 産業別付加価値額構成比（2次産業、3次産業）

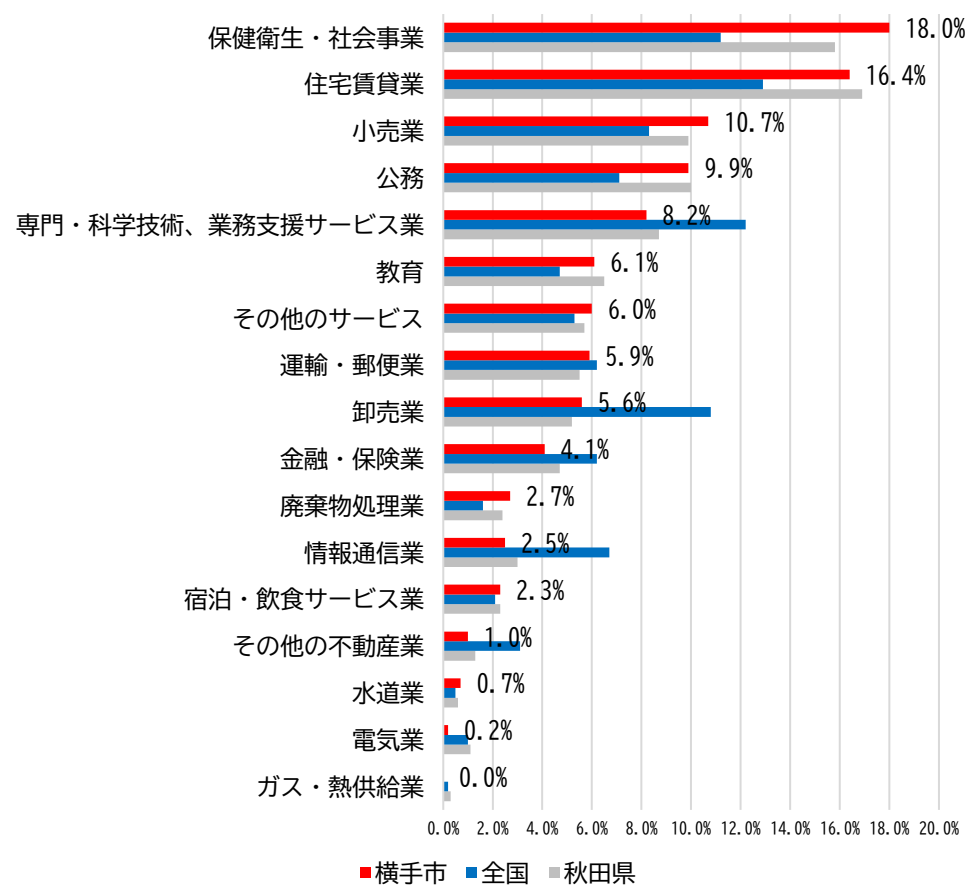
地域の付加価値のシェアが全国の付加価値のシェアよりも高い産業が付加価値でみた場合の得意な産業であり、比較優位な産業である。そして、これらの産業は地域において生産・販売をしやすい産業である。

付加価値を最も生み出しているのは2次産業では建設業、輸送用機械などであり、3次産業では保健衛生・社会事業、住宅賃貸業、小売業などである。

2次産業



3次産業

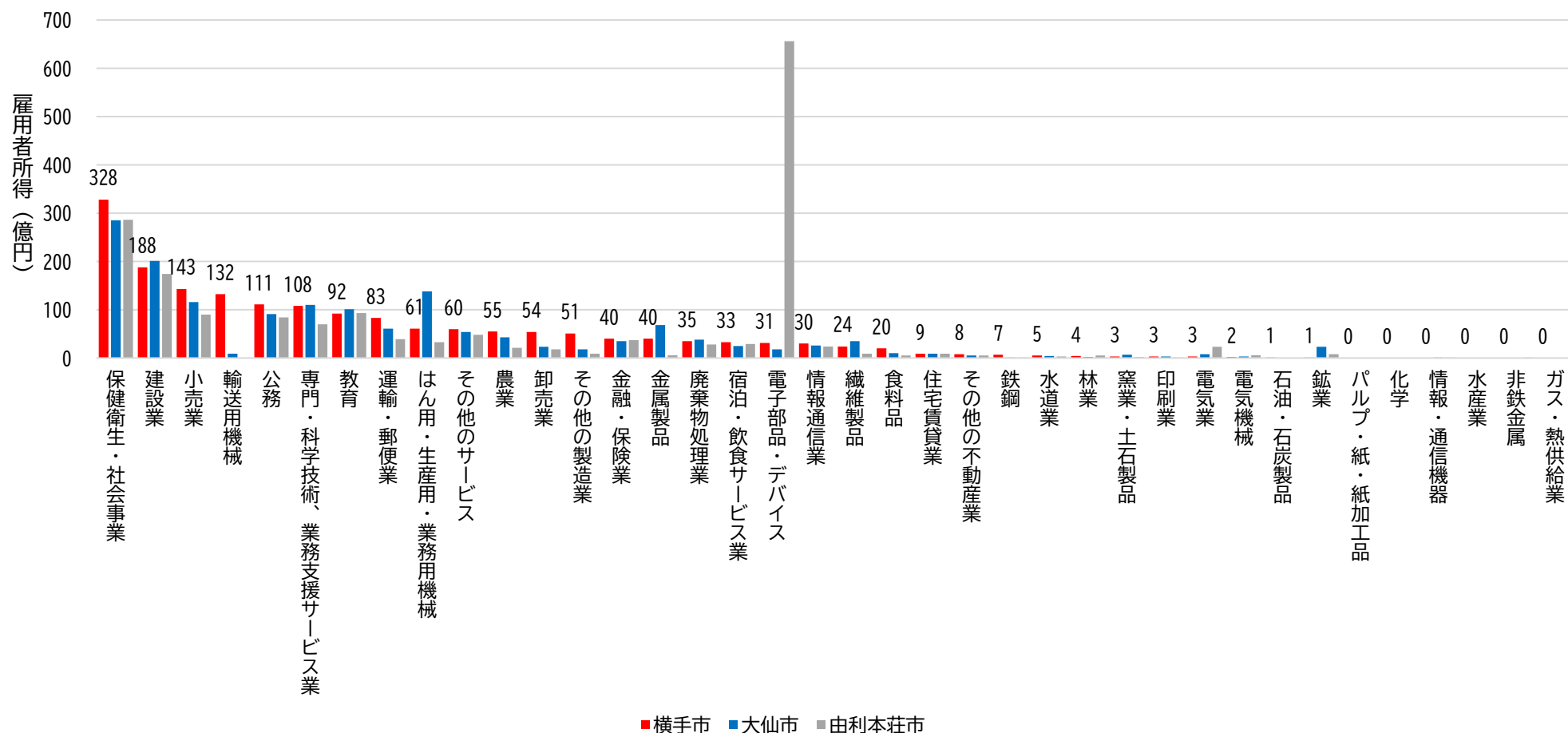


(7) 産業別雇用者所得

地域で生み出された付加価値（≡GDP）は、「雇用者所得」と「その他の所得（＝営業余剰(営業利益、利子、賃料等)＋固定資本減耗＋間接税）」に分配される。雇用者所得は企業等に労働を供給した雇用者（従業者）に支払われる所得である。

地域の産業別の雇用者所得をみて、地域の住民の生活を支えている産業が何かを把握できる。

雇用者所得が最も大きい産業は、保健衛生・社会事業で328億円であり、次いで建設業、小売業、輸送用機械、公務の雇用者所得が大きい。

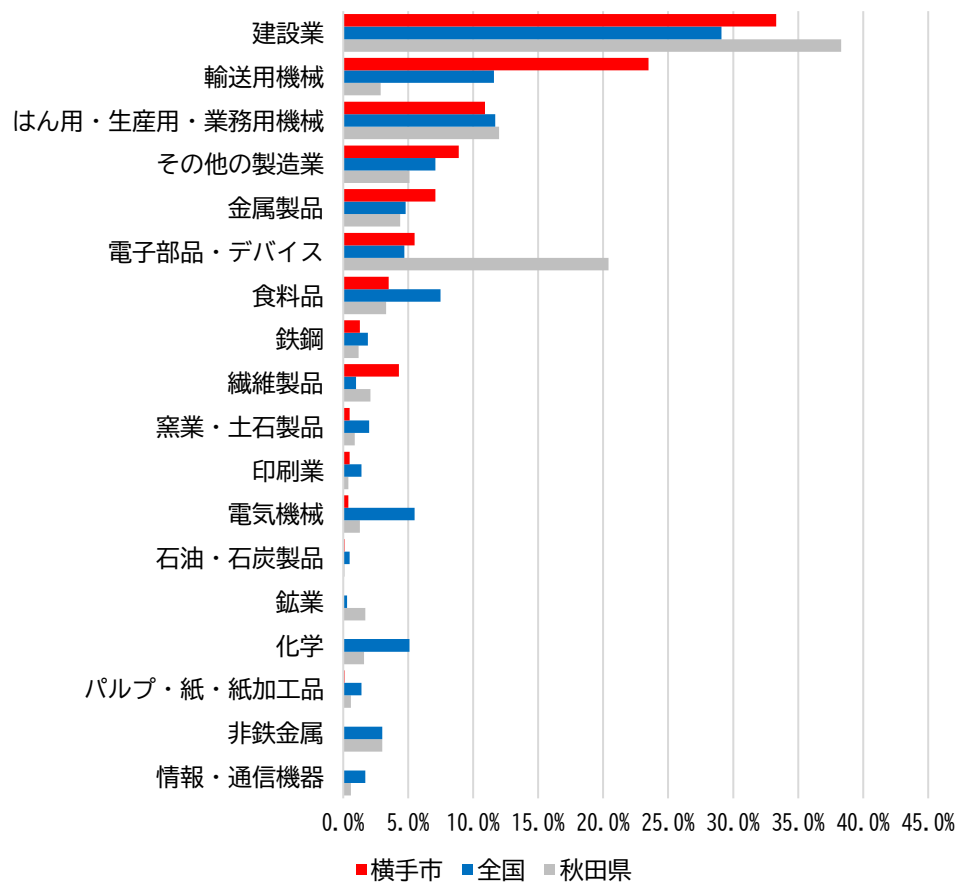


(8) 産業別雇用者所得構成比

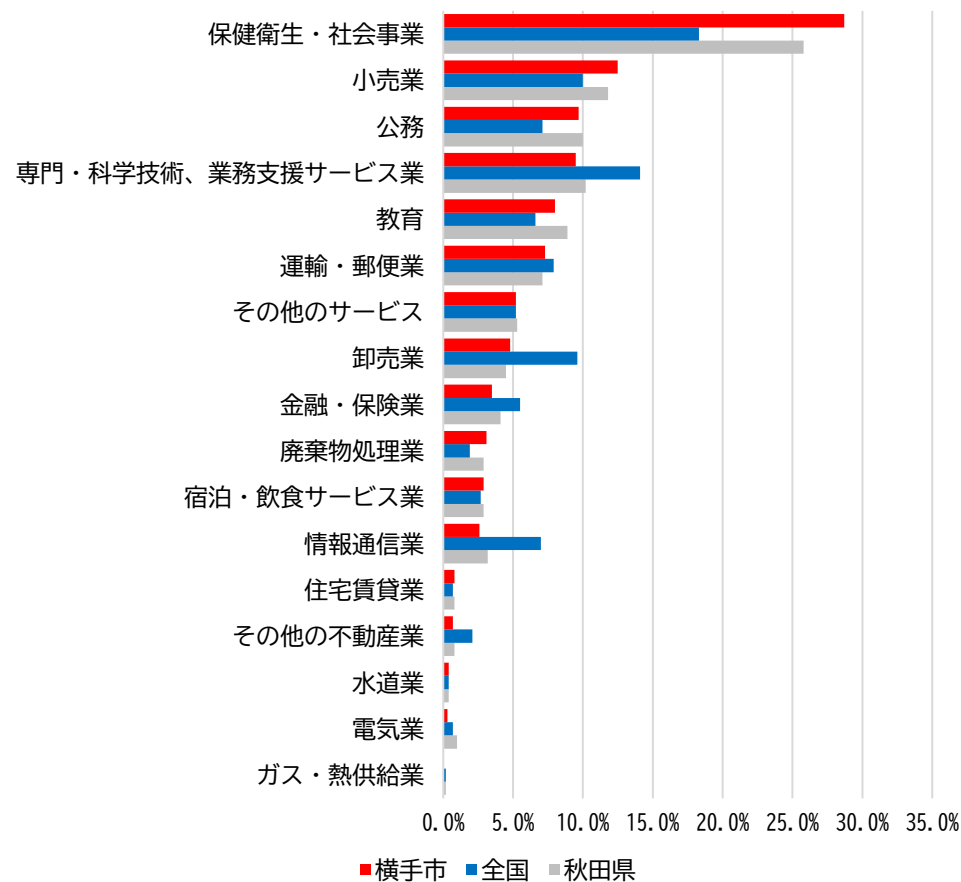
地域の住民に支払われる産業別雇用者所得のシェアを全国の産業別の雇用者所得のシェアと比較することで、地域の雇用者所得の特徴を把握することができる。

住民の生活を支える雇用者所得への寄与が大きい産業は、2次産業では建設業、輸送用機械など、3次産業では保健衛生・社会事業、小売業、公務などとなっている。

2次産業



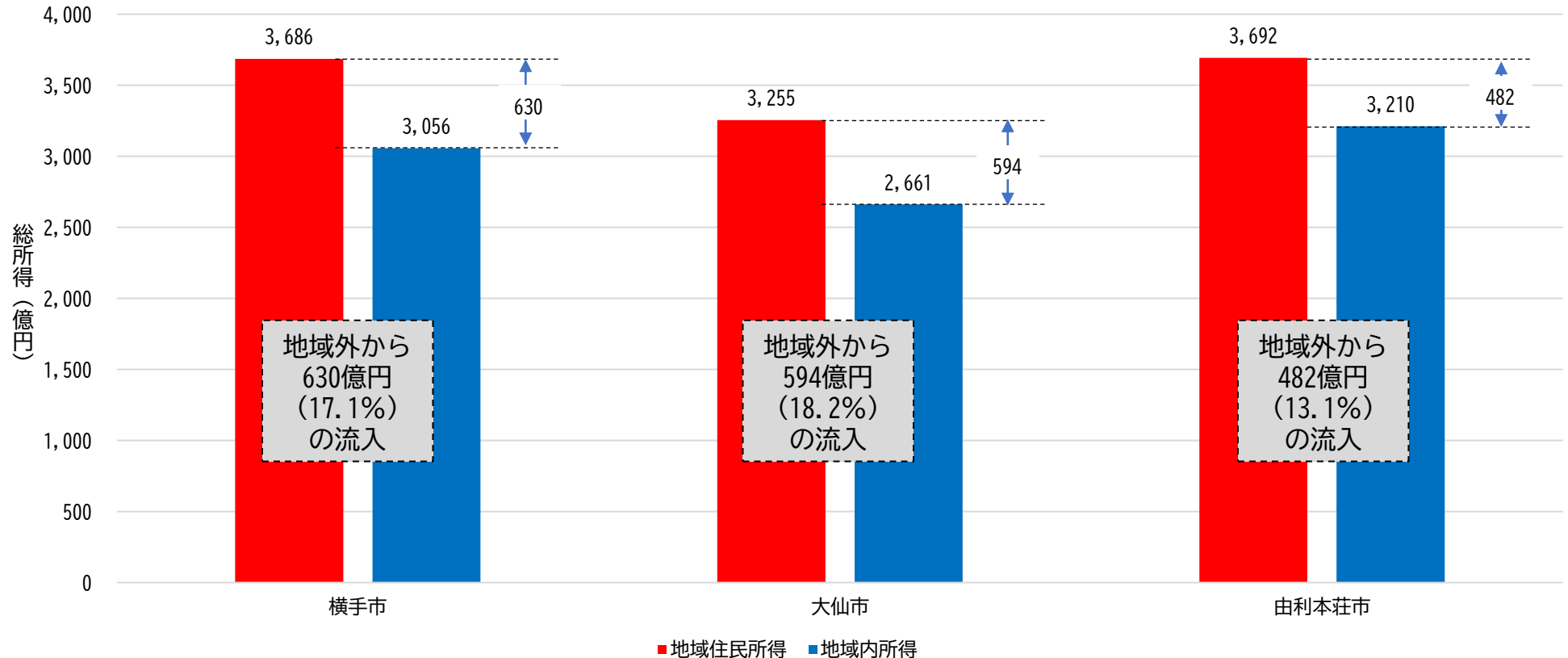
3次産業



(9) 住民への所得分配の状況（地域内所得と地域住民所得の比較その1）

横手市の場合、地域住民・企業が得る所得の方が、地域内で企業が生産・販売で得た所得よりも630億円程度多く、地域外から所得が流入している。

大仙市及び由利本荘市でも同様の状況となっているが、横手市よりも由利本荘市の方が、地域内での所得が多い。



※地域内所得・・・地域内雇用者所得（地域内（域外からの通勤者を含む）の雇用者所得と、地域内その他所得（地域内の雇用者所得以外の財産所得、企業所得、交付税、補助金等）の合計

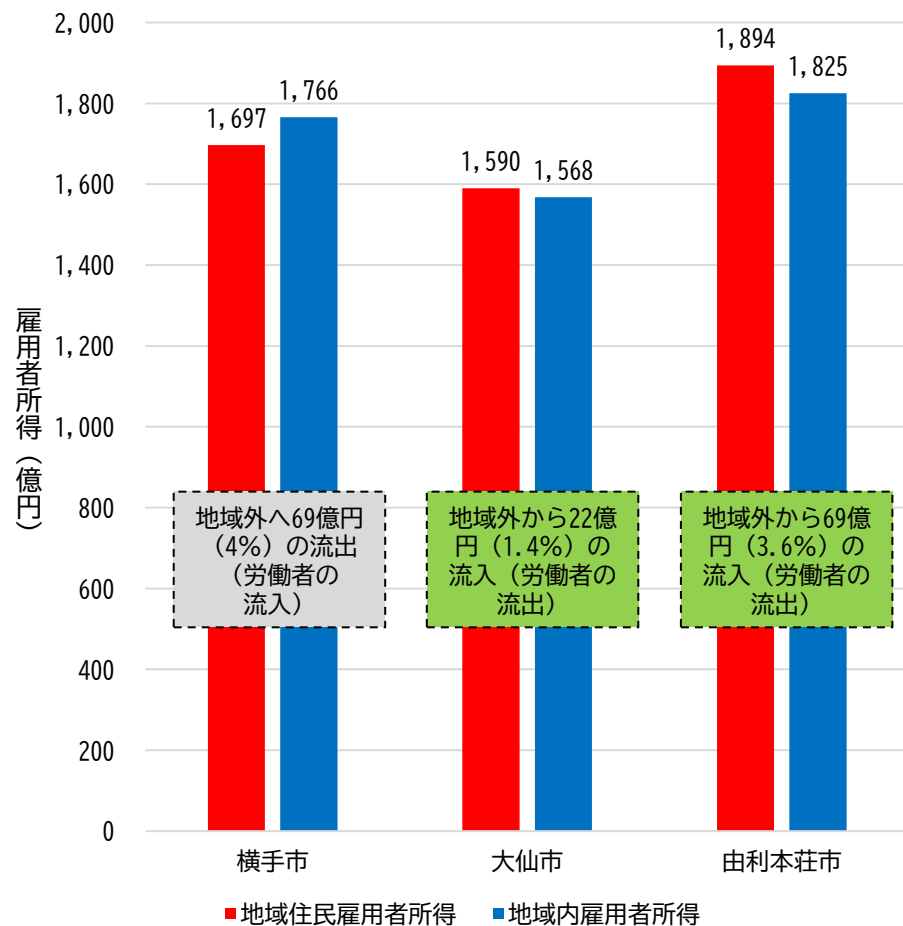
※地域住民所得・・・地域住民雇用者所得（地域住民（域外への通勤者を含む）の雇用者所得と、地域住民その他所得（地域住民の雇用者所得以外の財産所得、企業所得、交付税、補助金等）の合計

(10) 住民への所得分配の状況（地域内所得と地域住民所得の比較その2）

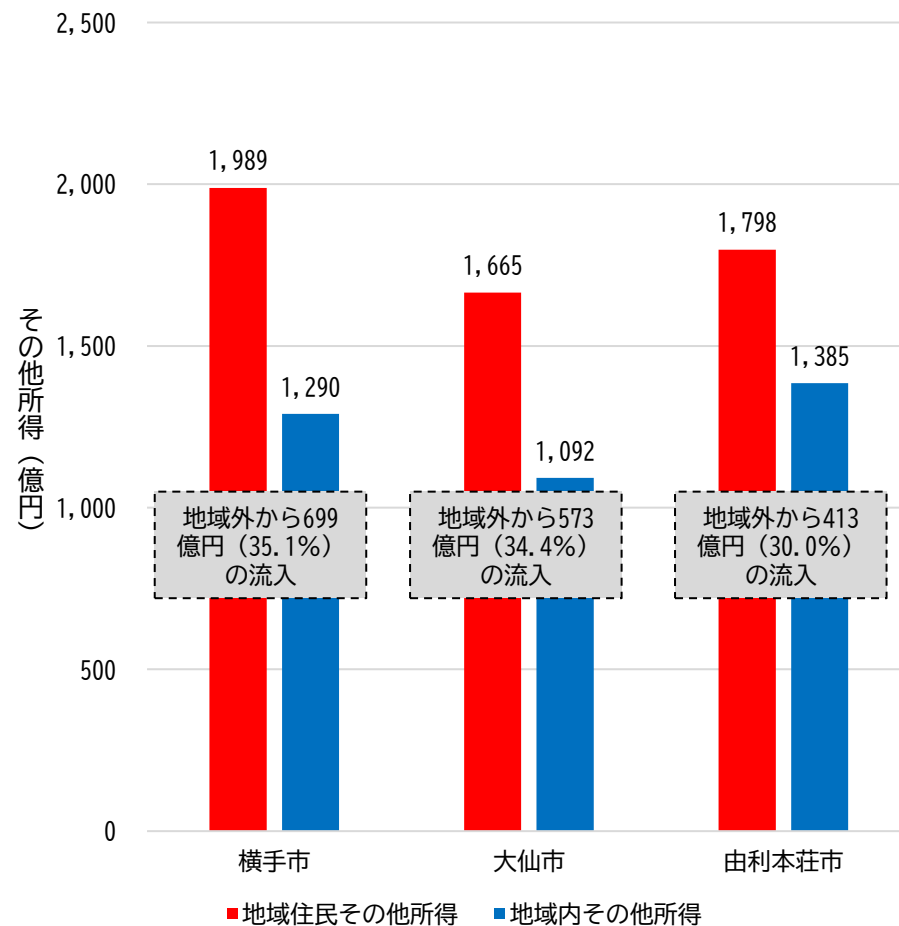
横手市では地域住民・企業が得る雇用者所得の方が、地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得よりも69億円程度少なく、地域外へ雇用者所得が流出している。一方で、大仙市及び由利本荘市では、雇用者所得が流入している。

横手市では地域住民・企業が得るその他所得の方が、地域内で企業が生産・販売で得たその他所得よりも699億円程度多く、地域外からその他所得が流入している。大仙市及び由利本荘市も同様の状況となっている。

雇用者所得



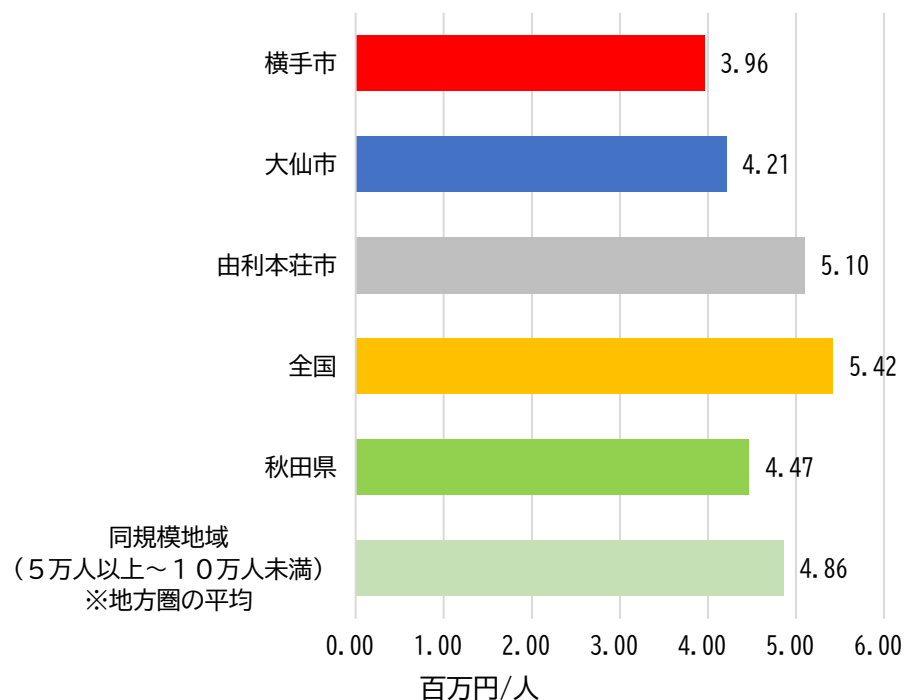
その他所得



(1 1) 一人当たり雇用者所得の水準

横手市の従業者1人当たりの雇用者所得(従業地ベース)は、全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。大仙市においても同様の状況となっているが、由利本荘市においては、全国より低い、県、人口同規模地域と比較して高い水準である。

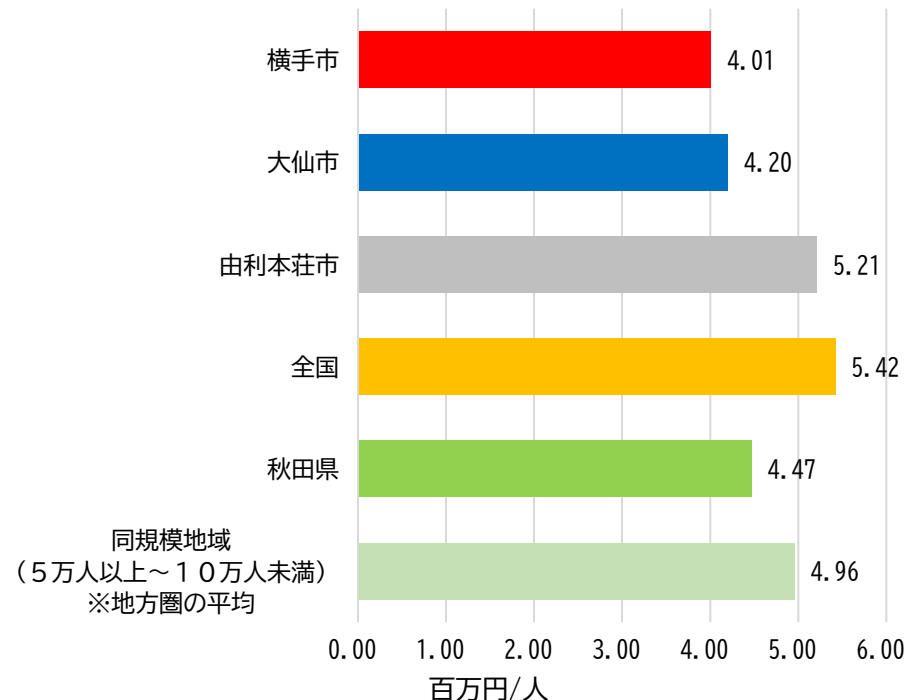
従業者1人当たり雇用者所得
(従業地ベース)



注) ここでの雇用者所得は、地域内(域外からの通勤者を含む)の雇用者所得である。

横手市の就業者1人当たりの雇用者所得(居住地ベース)は、全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。大仙市においても同様の状況となっているが、由利本荘市においては、全国より低い、県、人口同規模地域と比較して高い水準である。

就業者1人当たり雇用者所得
(居住地ベース)



注) ここでの雇用者所得は、地域住民(域外への通勤者を含む)の雇用者所得である。

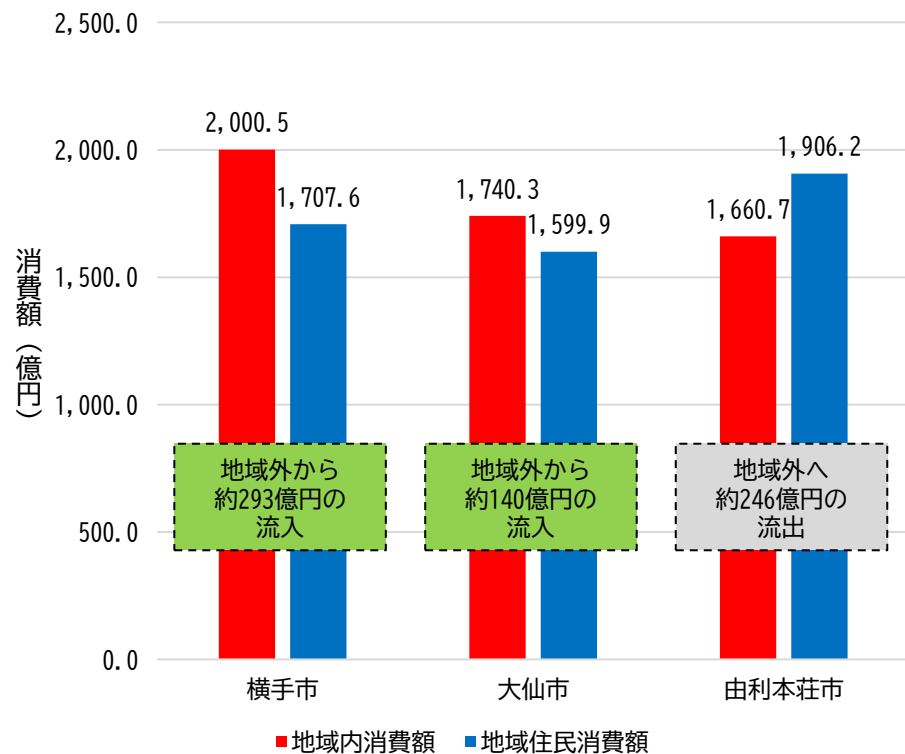
(12) 地域内消費

地域の住民の消費が地域内外のどこで消費されているかを把握するため、域内消費額と地域住民消費額を比較している。

横手市では、地域内で消費される額が、地域住民が消費する額よりも293億円程度多く、消費が流入している。

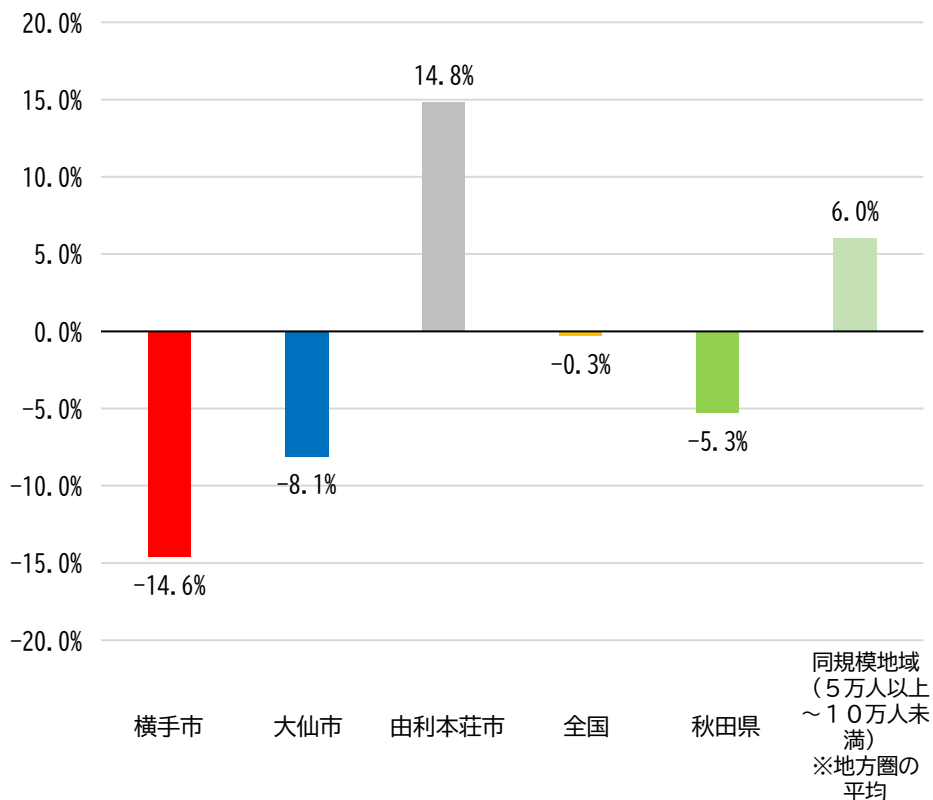
大仙市においても、140億円程度消費が流入しているが、由利本荘市では246億円程度消費が流出している。

消費額



横手市の消費の流出率は-14.6%であり流入している。流入率は県や人口同規模地域と比較して高い水準である。大仙市においても、-8.1%であり流入しているが、由利本荘市では14.8%であり、流出している。

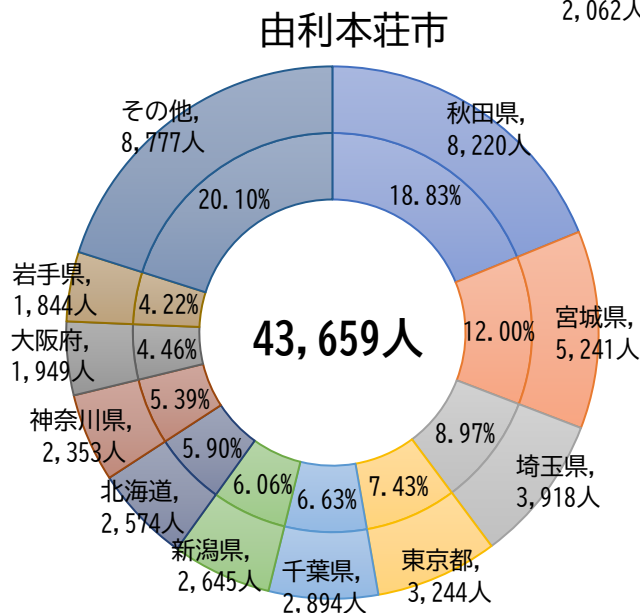
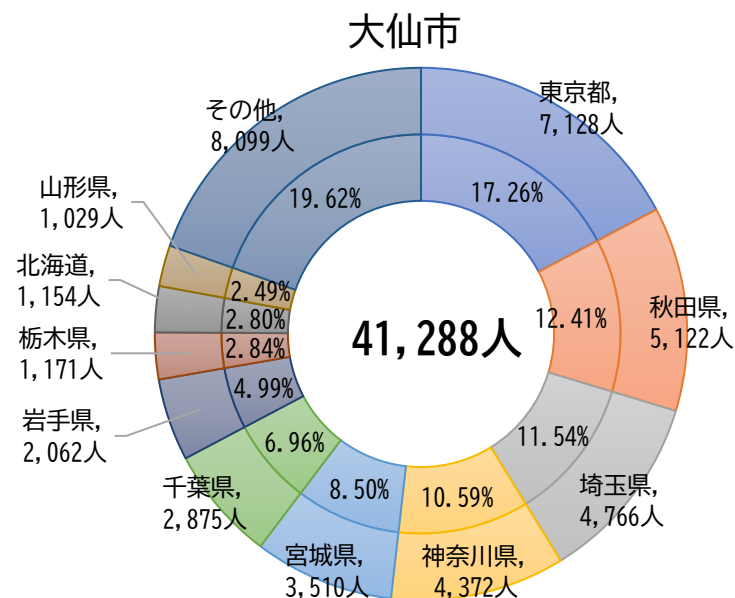
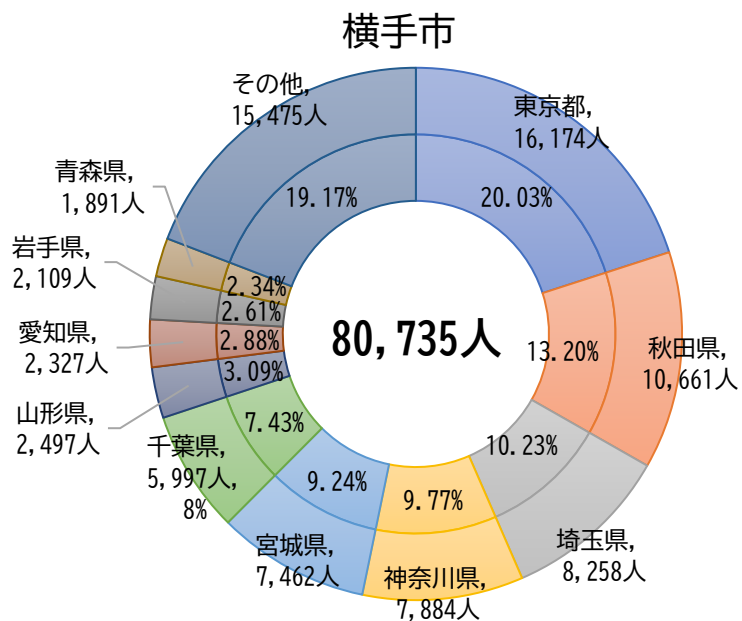
消費の流出率



(13) 宿泊者数と居住地（日本人）

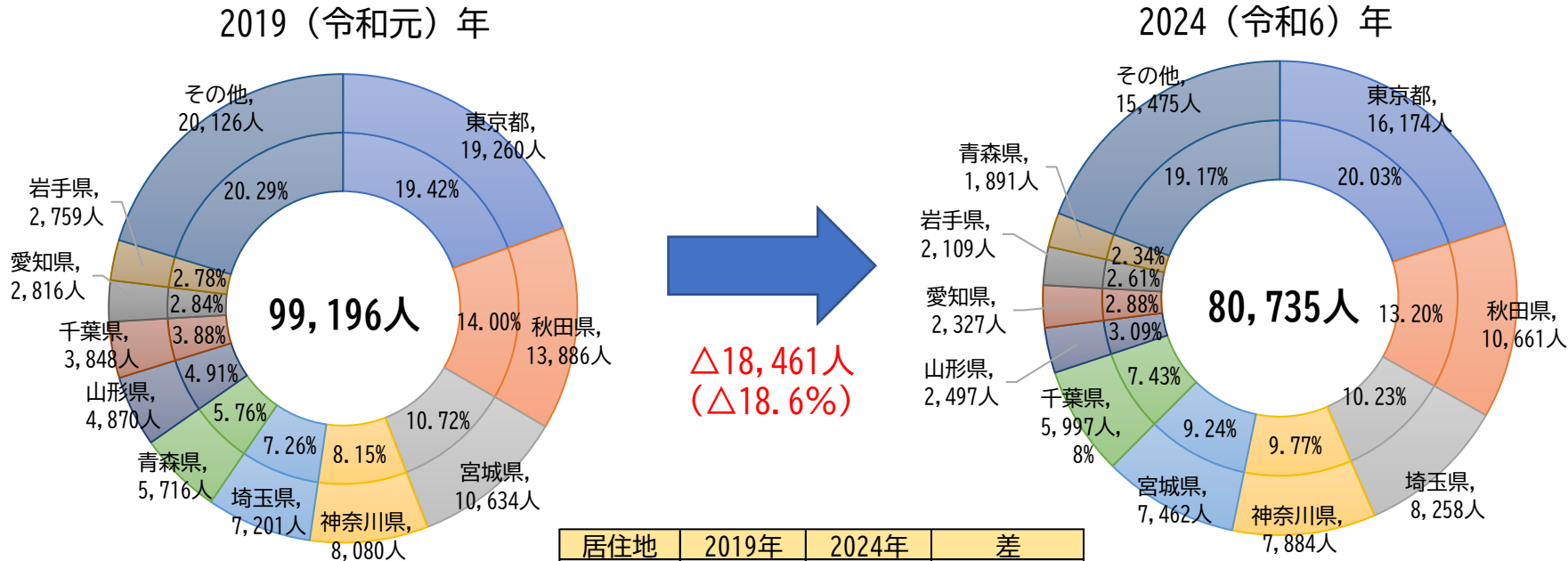
横手市の令和6（2024）年の日本人宿泊者数は、80,735人で大仙市及び由利本荘市の約2倍となっている。

宿泊者の居住都道府県を見ると、東京都が最も多く16,174人、次いで秋田県、埼玉県、神奈川県などとなっており、関東圏からの宿泊者が多い。



(14) 宿泊者数の推移

横手市の2019（令和元）年の宿泊者数と2024（令和6）年の宿泊者数を比較すると、約18,000人減少している。
宿泊者の居住都道府県はほぼ変わっていない。

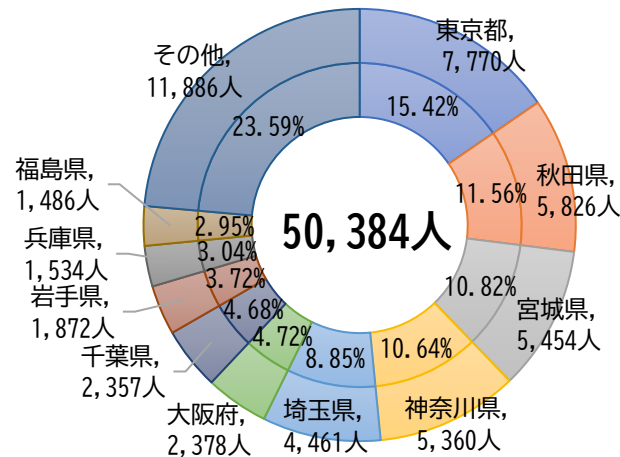


居住地	2019年	2024年	差
東京都	19,260人	16,174人	△3,086人
秋田県	13,886人	10,661人	△3,225人
埼玉県	10,634人	8,258人	△2,376人
神奈川県	8,080人	7,884人	△196人
宮城県	7,201人	7,462人	261人
千葉県	5,716人	5,997人	281人
山形県	4,870人	2,497人	△2,373人
愛知県	3,848人	2,327人	△1,521人
岩手県	2,816人	2,109人	△707人
青森県	2,759人	1,891人	△868人
その他	20,126人	15,475人	△4,651人
合計	99,196人	80,735人	△18,461人

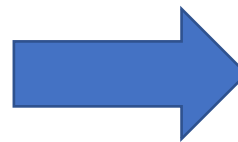
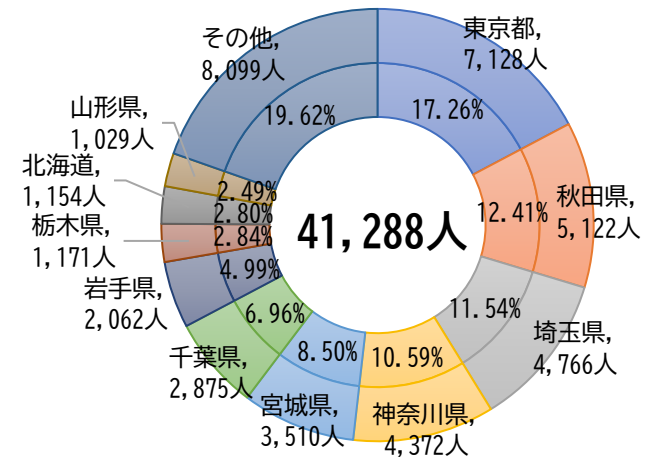
(15) 宿泊者数の推移（近隣自治体）

大仙市及び由利本荘市の令和元（2019）年の宿泊者数と令和6（2024）年の宿泊者数の比較では、10,000人前後の減少となっており、減少率では、横手市（△18.6%）と同様となっている。
居住都道府県は、横手市と比べると変動が見られる。

大仙市（2019（令和元）年）

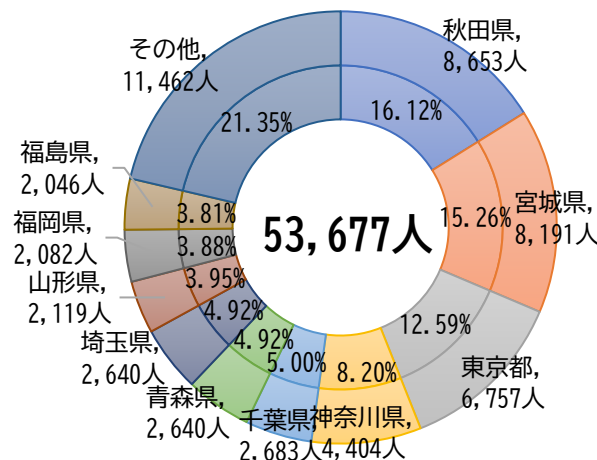


大仙市（2024（令和6）年）

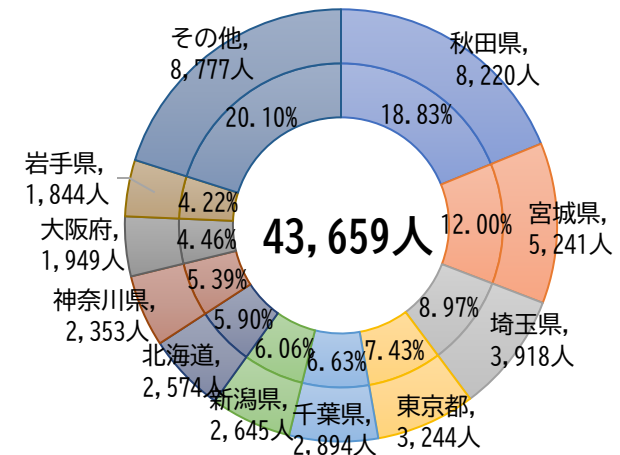


△9,096人
(△18.0%)

由利本荘市（2019（令和元）年）



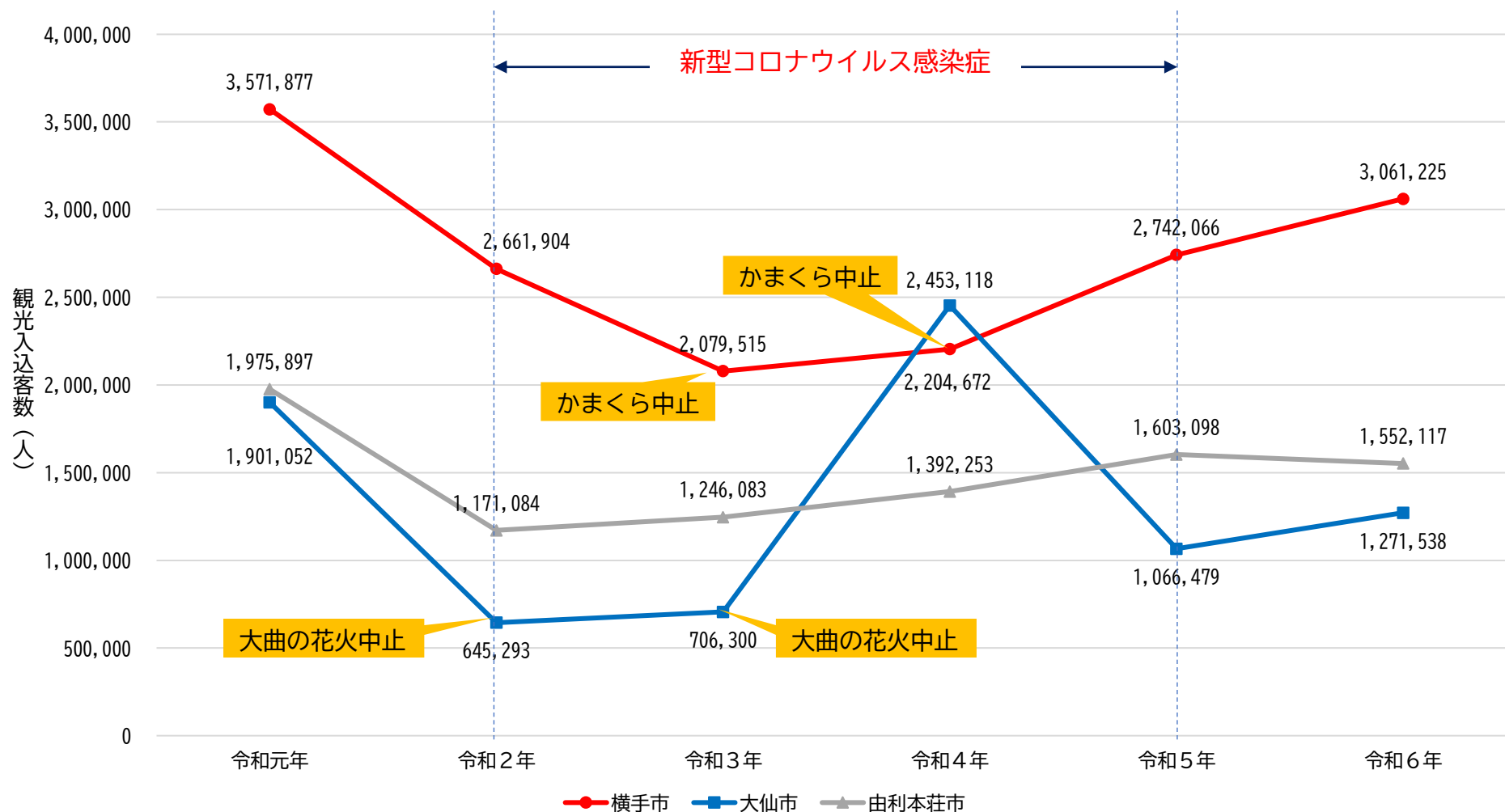
由利本荘市（2024（令和6）年）



△10,018人
(△18.7%)

(16) 観光入込客数の推移

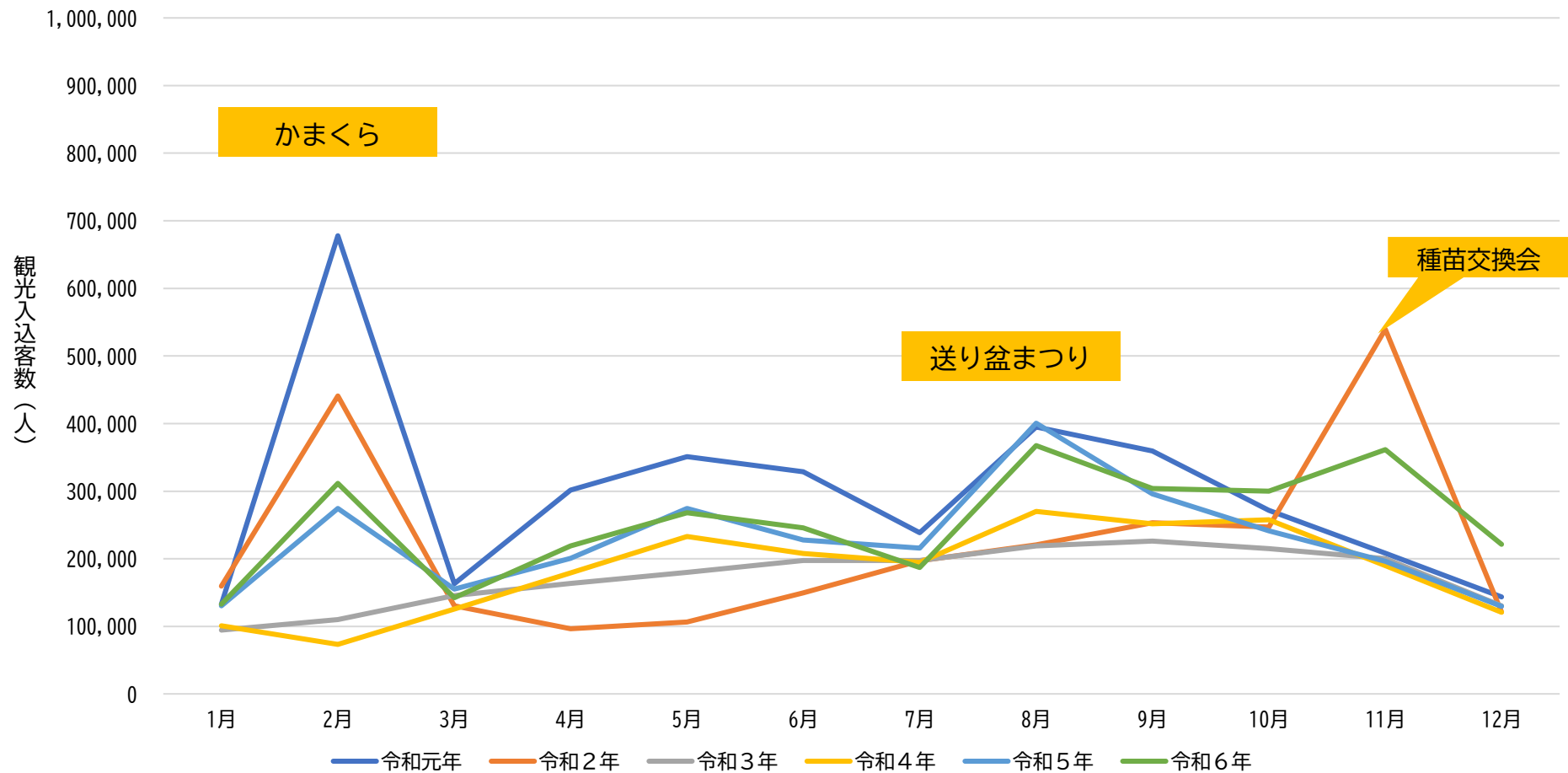
横手市の観光入込客数は、令和元年は約360万人だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一旦減少傾向になったものの、令和4年から徐々に回復し、令和6年には306万人となっている。
大仙市及び由利本荘市と比べると、令和6年は約2倍となっている。



(17) 観光入込客数の推移（月別）

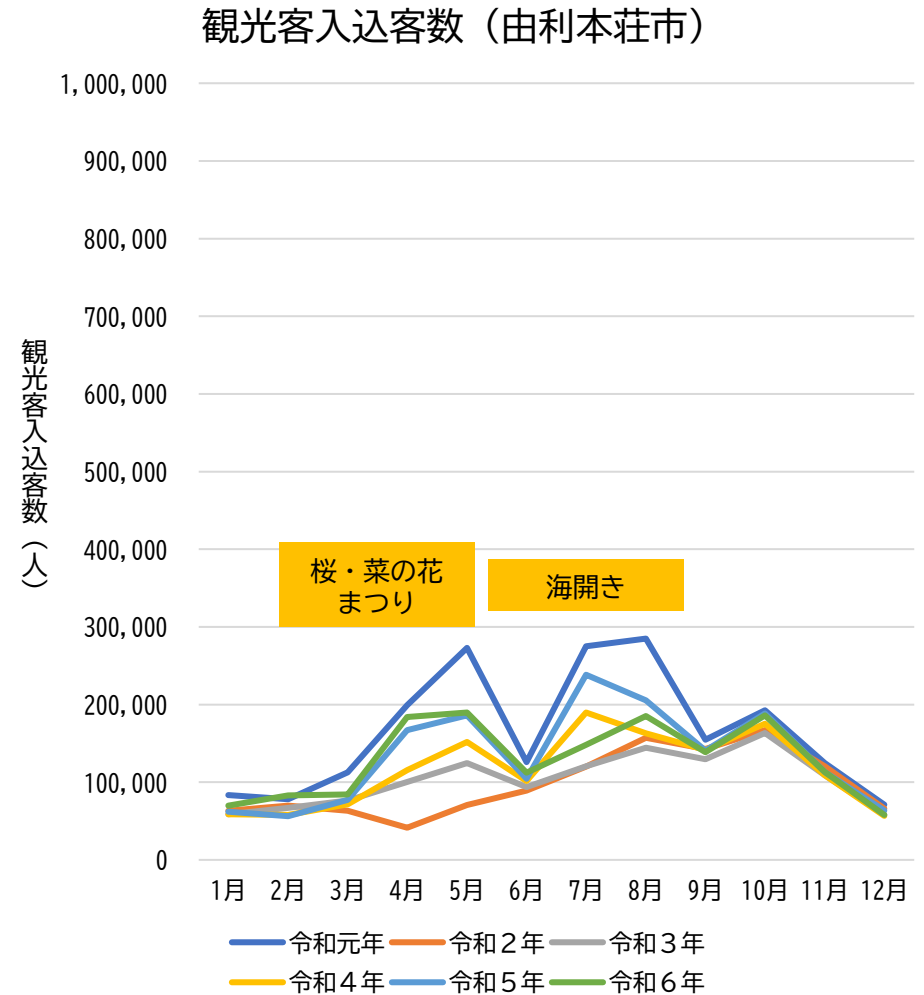
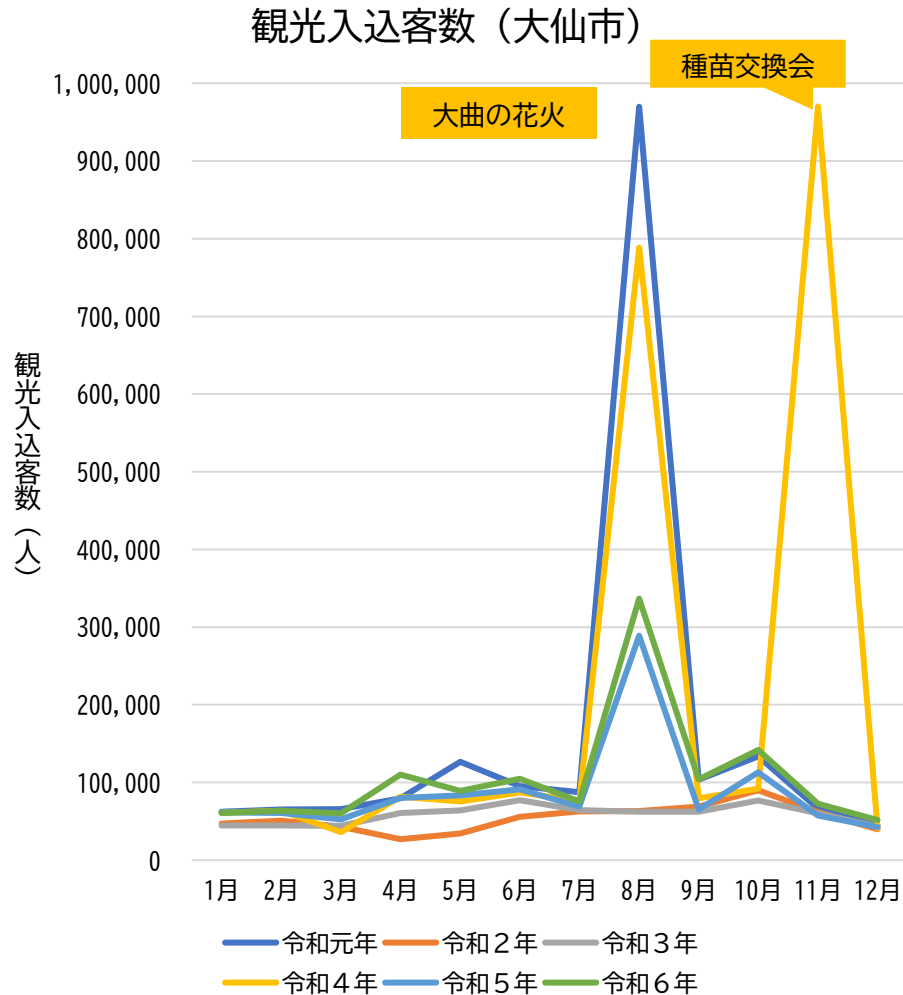
横手市の観光入込客数を月別に見ると、2月と8月が多いが、12月、1月、3月に減少する傾向にある。

観光入込客数（横手市）



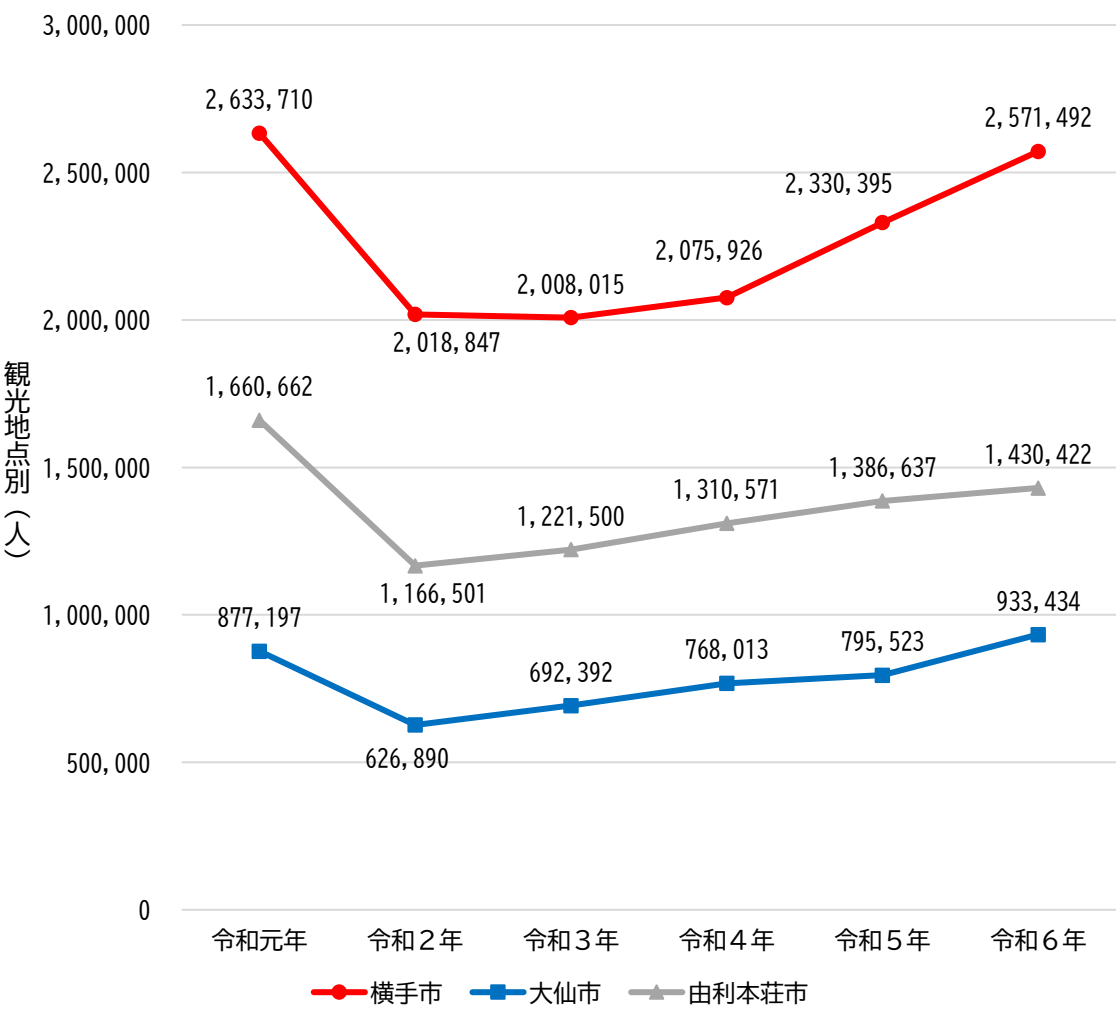
(18) 観光入込客数の推移（月別）（近隣自治体）

大仙市及び由利本荘市の観光入込客数を月別に見ると、大仙市では8月、由利本荘市では5月と7、8月に多くなる傾向にあるものの、通年で見ると、横手市の方が多い。



(19) 観光入込客数の推移（観光地点別）

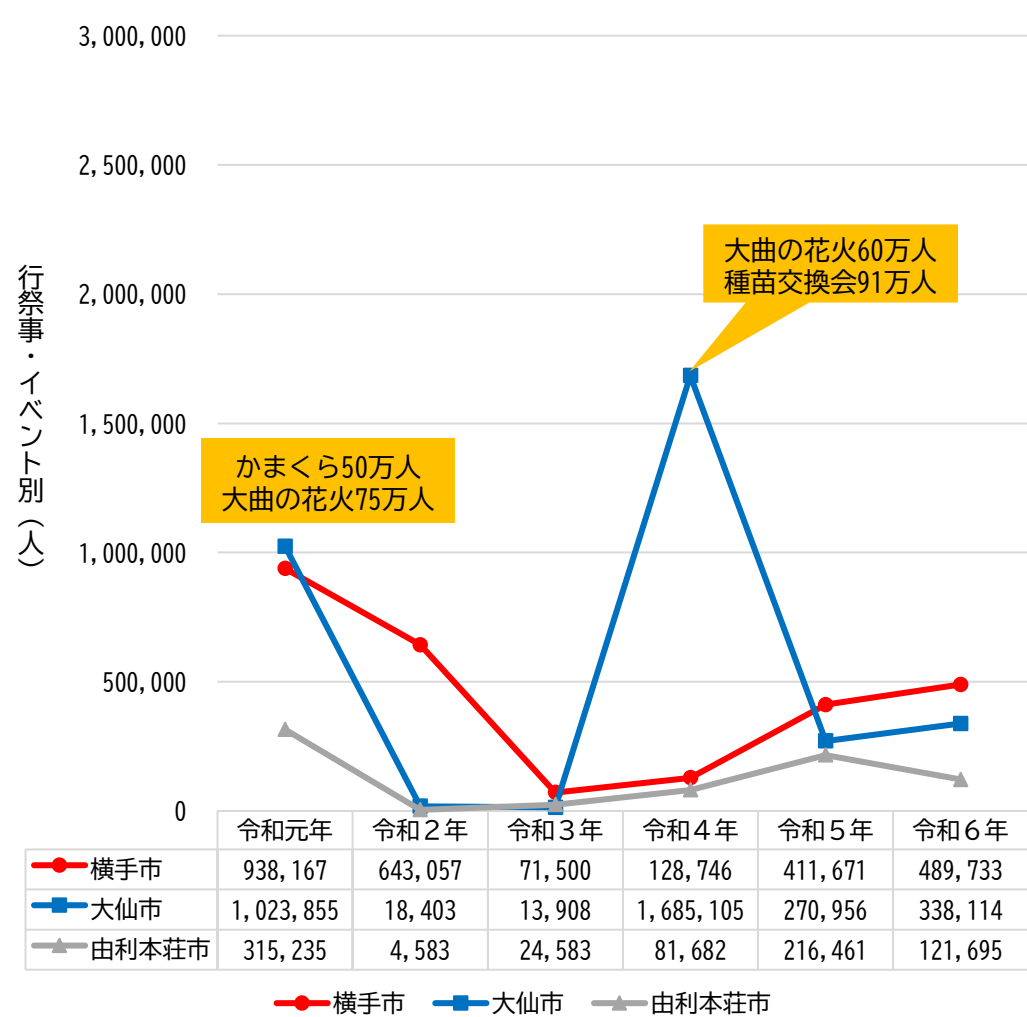
横手市の観光地点別の観光入込客数を見ると、大仙市及び由利本荘市に比べ、観光地点が多い分、入込客数も多く、特に、秋田ふるさと村の影響が大きい。また、共通する点として、道の駅の占める割合が大きい。
観光地点全体で見ると、コロナ禍前の水準に戻りつつある。



自治体名	観光地点名	R 6
横手市	1 横手駅前温泉ゆうゆうプラザ	80,113
	2 横手公園	84,150
	3 金沢公園	18,650
	4 平安の風わたる公園	22,800
	5 秋田ふるさと村	699,607
	6 横手公園展望台	17,986
	7 横手市ふれあいセンターかまくら館	25,390
	8 秋田県立近代美術館	173,895
	9 横手市増田まんが美術館	68,990
	10 天下森スキー場	17,863
	11 漆蔵資料館	7,507
	12 増田観光物産センター「蔵の駅」（まちなみ見学を含む）	17,879
	13 横手市平鹿ときめき交流センターゆっぶる	126,131
	14 雄物川中央公園	15,746
	15 雄物川河川公園	7,253
	16 雄物川温泉えがおの丘	65,931
	17 おものがわ温泉雄川荘	45,413
	18 休養センターさくら荘	66,849
	19 羽後カントリークラブ	24,559
	20 南郷（夢）温泉共林荘	25,178
	21 道の駅さんない	241,854
	22 ゆとりおん大雄	56,916
	23 増田の町並み案内所「ほたる」	22,625
	24 非公表	638,207
大仙市	1 秋田県立農業科学館	86,144
	2 大曲ファミリースキー場	4,717
	3 茶屋っこー里塚（道の駅かみおか）	152,860
	4 西仙北めぐ森温泉ユメリア	118,389
	5 ドンパン館の里（道の駅なかせん）	120,738
	6 協和温泉 四季の湯	28,865
	7 協和スキー場	12,284
	8 ロイヤルセンチュリーゴルフ倶楽部	16,904
	9 四季の森（道の駅協和）	220,170
	10 史跡の里交流プラザ 柵の湯	104,313
	11 奥羽山荘	43,113
	12 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」	24,937
由利本荘市	1 長谷寺・五峰苑	18,299
	2 本荘マリナ海水浴場	4,485
	3 ポートプラザ・アクアパル	16,762
	4 鳥海高原矢島スキー場	32,868
	5 花立牧場公園	41,159
	6 法体の滝	73,100
	7 猿倉温泉（鳥海荘・フォレスト鳥海）	52,088
	8 生産物直売所菜らんど	80,463
	9 ほっといん鳥海（道の駅清水の里鳥海郷）	39,188
	10 黄桜温泉 湯楽里	54,137
	11 レストランやしお	24,051
	12 八塩いこいの森	27,379
	13 岩城総合交流ターミナル（ケバック）（道の駅岩城）	370,481
	14 岩城温泉（港の湯）	97,141
	15 ハーブワールドAKITA	50,932
	16 物産館・直売所（道の駅にしめ）	243,530
	17 総合交流ターミナル ほほろっこ（道の駅おうち）	60,003
	18 鳥海山 木のおもちゃ美術館	43,656
	19 非公表	100,700

(20) 観光入込客数の推移（行祭事・イベント別）

横手市の行祭事・イベント別の観光入込客数を見ると、令和6年ではコロナ禍前の約半数となっている。大仙市及び由利本荘市は、3割から4割まで落ち込んでいる。代表するイベントを見ると、かまくらでは令和元年に50万人だったのに対し、令和6年で17万人、大曲の花火では令和元年に75万人だったのに対し、令和6年で10万人まで落ち込んでいる。



自治体名	観光地点名	R 6
横手市	1 かまくら	173,000
	2 送り盆まつり	95,500
	3 よこて桜まつり	12,500
	4 よこて菊まつり	58,000
	5 全国線香花火大会	7,800
	6 横手やきそば四天王決定戦	8,283
	7 真人公園さくらまつり	18,150
	8 増田の花火	50,000
	9 浅舞公園あやめまつり	27,500
	10 は・は・は祭	5,000
	11 大森リゾート村芝桜フェスタ	19,000
	12 いものこまつりin鶴ヶ池	6,000
	13 大雄サマーフェスティバル	9,000
大仙市	1 全国花火競技大会「大曲の花火」	100,000
	2 大仙市秋の稔りフェア	28,000
	3 夏まつり大曲・花火ウィーク	98,000
	4 神岡南外花火大会	15,000
	5 刈和野の大綱引き	6,000
	6 なかせん桜まつり	20,114
	7 ドンパン祭り	40,000
	8 全国ジャンボうさぎフェスティバル	10,000
	9 協和七夕花火	5,000
	10 大曲の花火 春の章	7,000
	11 大曲の花火 秋の章	9,000
由利本荘市	1 本荘さくらまつり	66,000
	2 菖蒲カーニバル	中止
	3 本荘川まつり花火大会	中止
	4 黄桜まつり	20,785
	5 日本海洋上花火大会	20,000
	6 鳥海高原由利原まつり	中止
	7 ディズニーオンアイス秋田・由利本荘講演	14,910

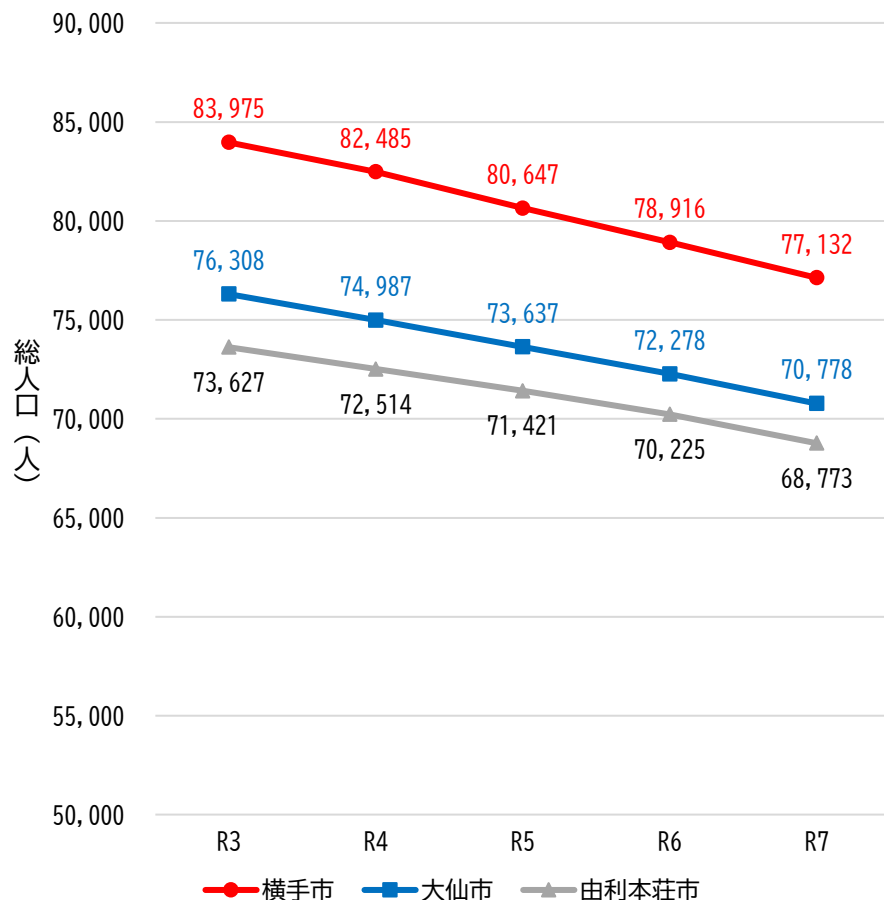
2. 人口構造分析

(1) 総人口の推移	23
(2) 総人口の推移(将来推計)	24
(3) 出生数の推移	25
(4) 女性人口(15～49歳)の推移	26
(5) 女性人口(15～49歳)の5歳区分の推移	27
(6) 【参考】男性人口(15～49歳)の5歳区分 の推移	28
(7) 女性人口(15～49歳)の総人口に対する 比率	29
(8) 年少人口(0～14歳)の推移	30
(9) 年少人口(0～14歳)の推移(将来推計)	31
(10) 年少人口(0～14歳)の総人口に対する比率	32

(1) 総人口の推移

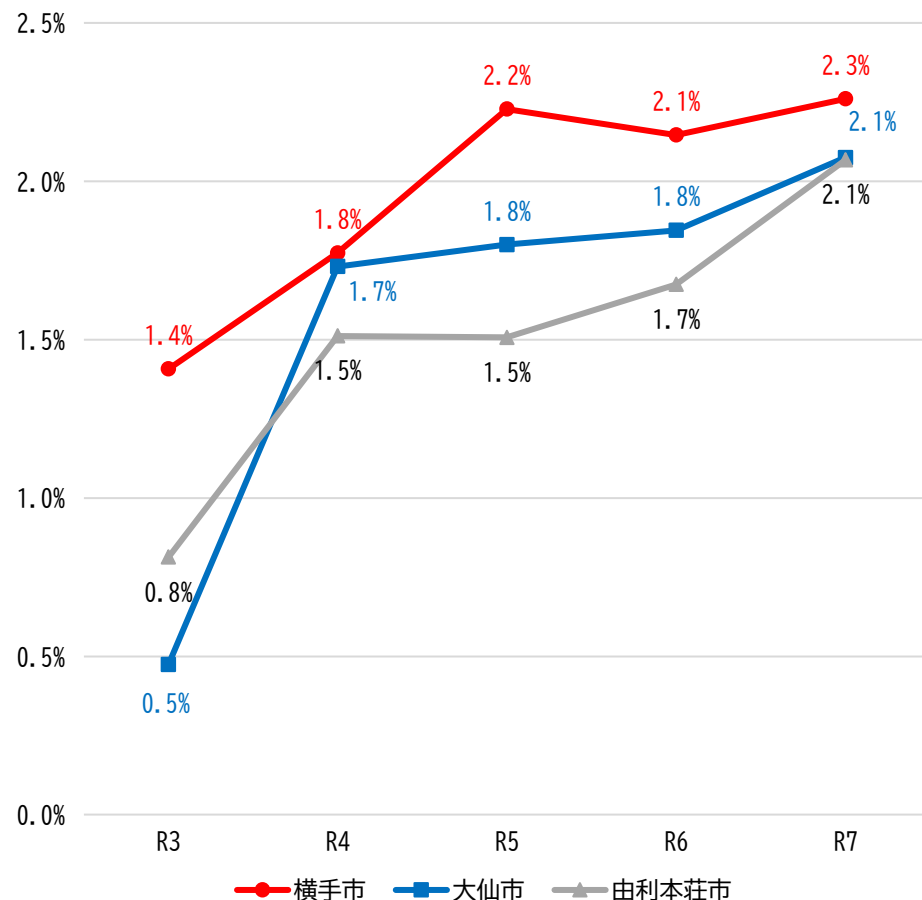
横手市の総人口は、減少が続いており、令和7年10月1日では77,132人となっている。
大仙市及び由利本荘市においても、減少傾向となっている。

総人口の推移



横手市における人口の減少率は、大仙市及び由利本荘市と比較すると高いが、経年変化を見ると、波は他の2市よりも緩やかである。

人口の減少率

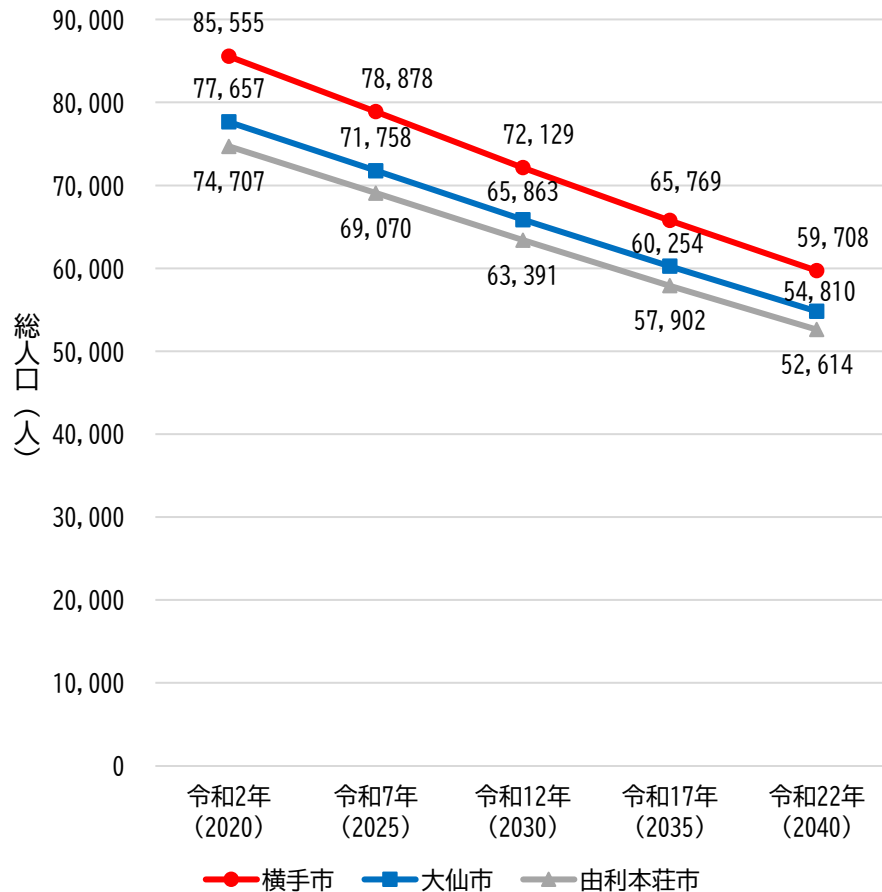


(2) 総人口の推移（将来推計）

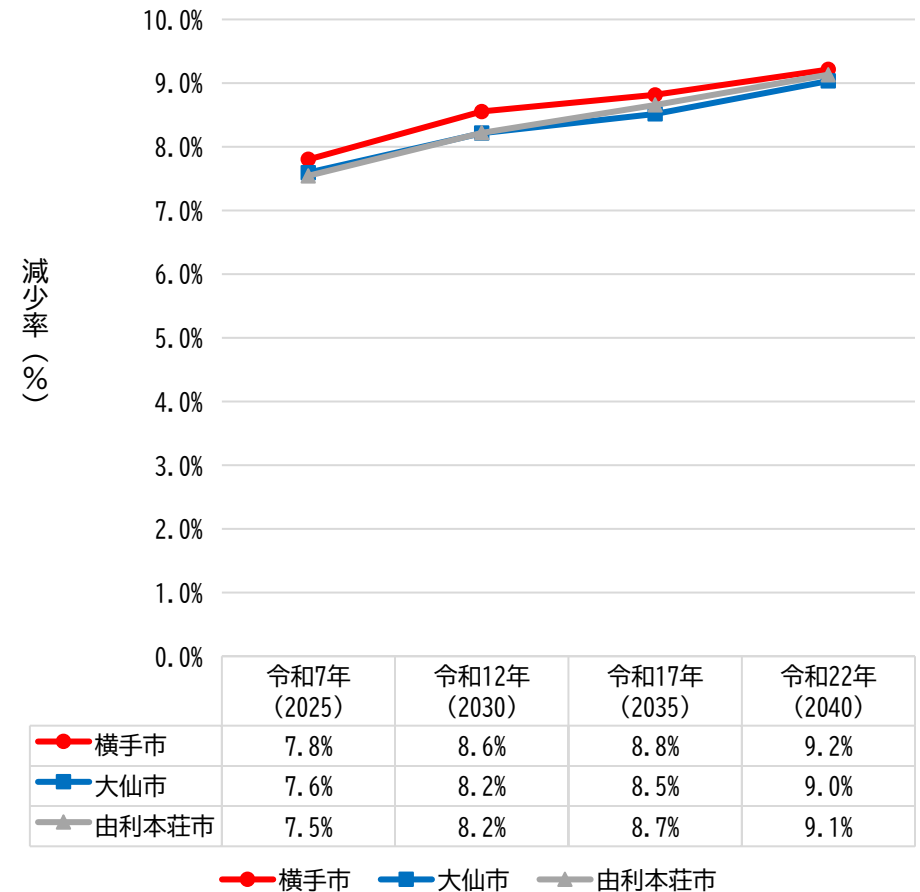
横手市の将来の総人口は、令和12（2030）年には72,129人、大仙市で65,863人、由利本荘市で63,391人と、令和2年から10年間で1万人以上、令和7年から5年間で約6千人減少すると推計されている。

人口の減少率については、3市ではほぼ同率で減少していくものと推計されている。

総人口の将来推計



人口の減少率（推計）

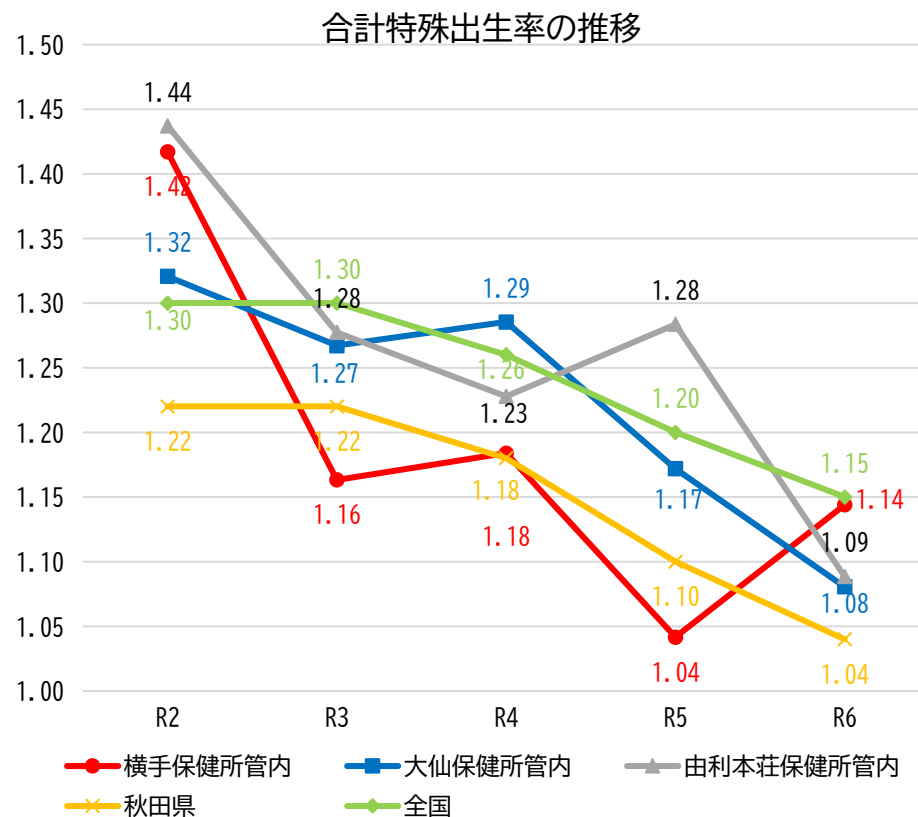
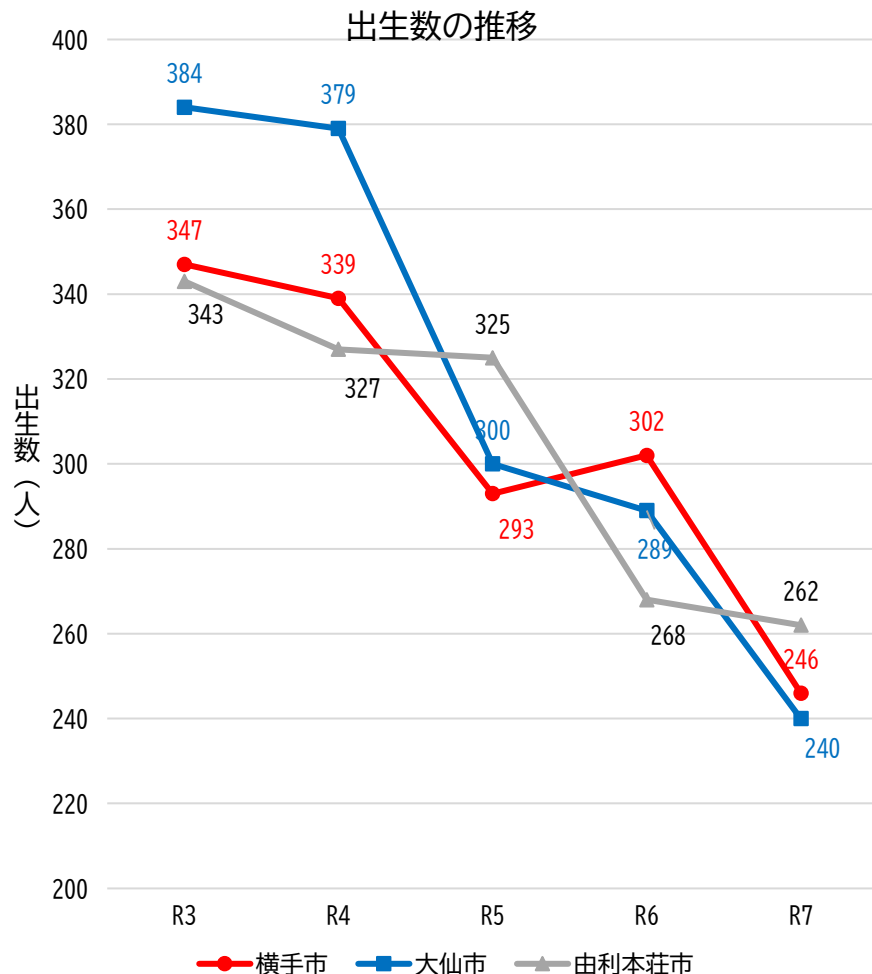


(3) 出生数の推移

横手市の出生数は、減少が続いており、令和6年10月1日～令和7年9月30日の期間では246人となっている。

大仙市及び由利本荘市においても、減少傾向となっている。

横手市の合計特殊出生率は、令和5年度以前は全国や秋田県、大仙市、由利本荘市に比べ低い状況となっていたが、令和6年は秋田県、大仙市、由利本荘市より高い。なお、大仙市及び由利本荘市の数値は、保健所単位であるため、市町村単位で見ると高低差が生じる可能性がある。（年齢別の出生数が、保健所単位でのみ公表されており、市町村単位での計算ができないため）



注) 横手保健所管内は、横手市のみ。

注) 大仙保健所管内は、大仙市、仙北市、美郷町。

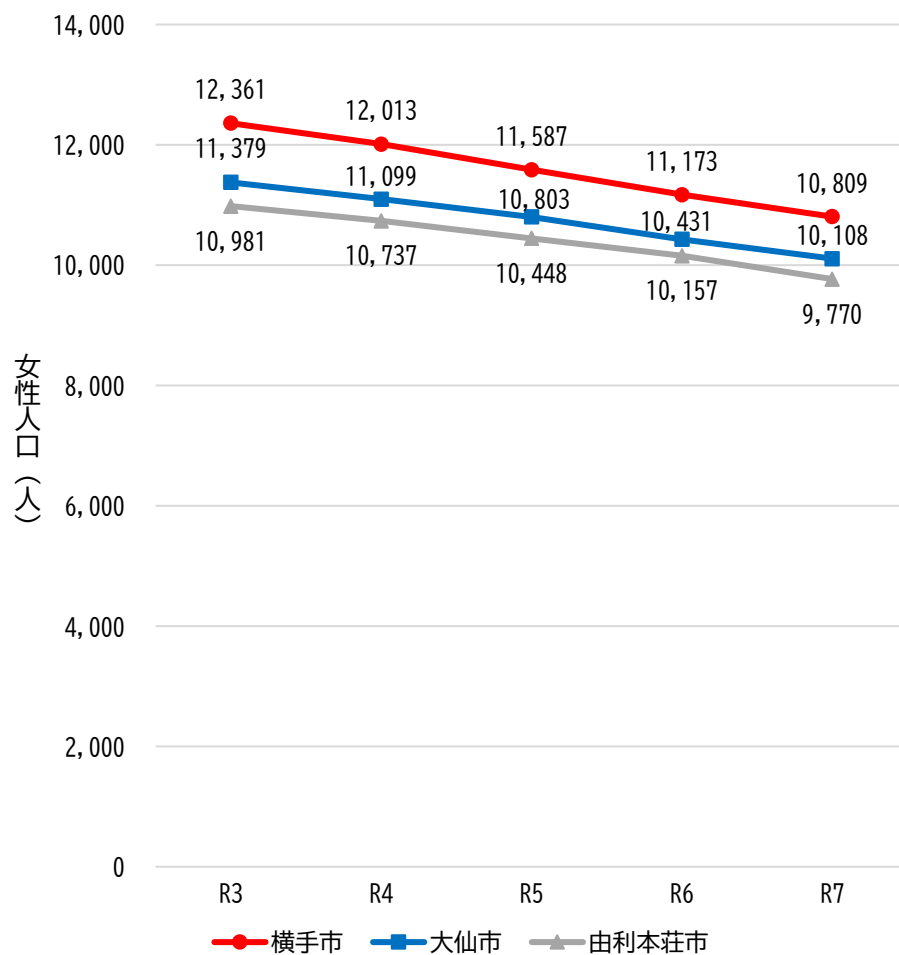
注) 由利本荘保健所管内は、由利本荘市、にかほ市。

(4) 女性人口（15～49歳）の推移

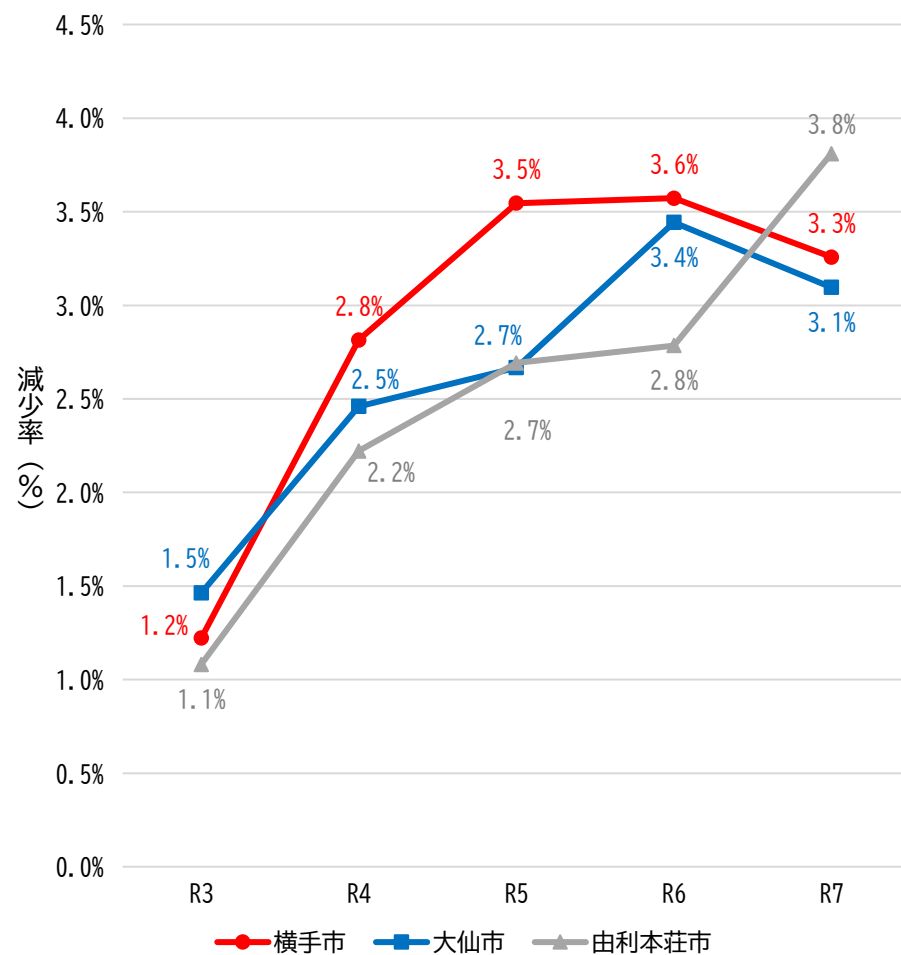
横手市の合計特殊出生率の算定基礎となる女性人口（15～49歳）は、減少傾向にあり、令和3年度から5年間で約1,500人減少している。大仙市及び由利本荘市は約1,200人が減少している。

女性人口の減少率を見ると、横手市及び大仙市では令和6年度まで上昇傾向であったが、令和7年度は低下している。由利本荘市は一貫して上昇している。

女性人口（15～49歳）の推移



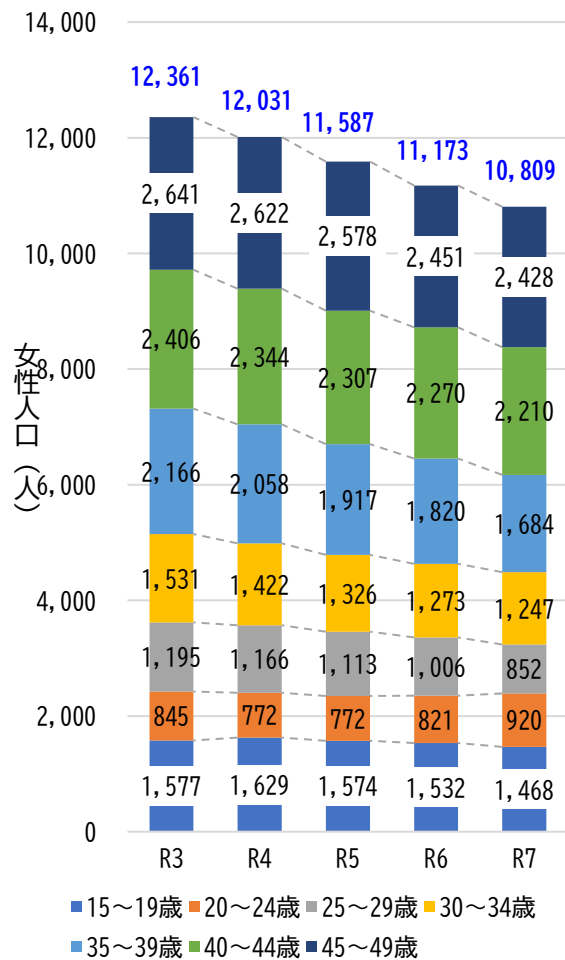
女性人口（15～49歳）の減少率



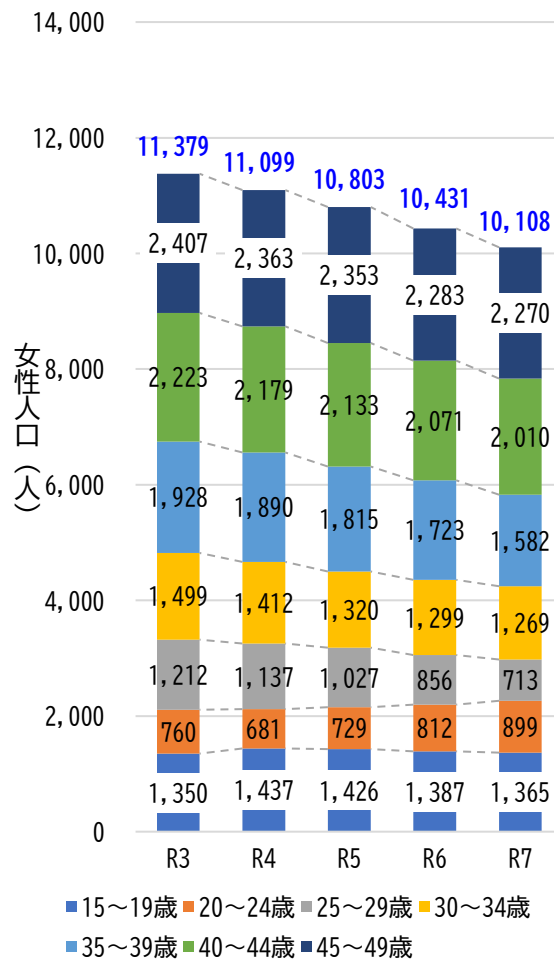
(5) 女性人口（15～49歳）の5歳区分の推移

女性人口（15～49歳）の5歳区分の推移を見ると、20～24歳以外で減少が続いている。
20～24歳については、コロナ禍後の上京減少（地方における女性の職域の変化）、都市部の住宅費高騰、テレワークの定着などが減少抑制につながっているものと考えられる。

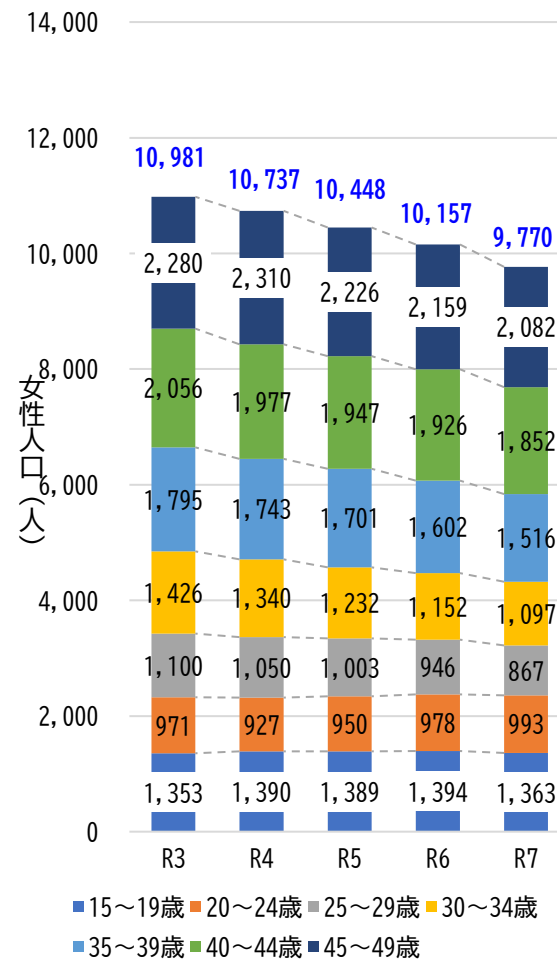
横手市



大仙市

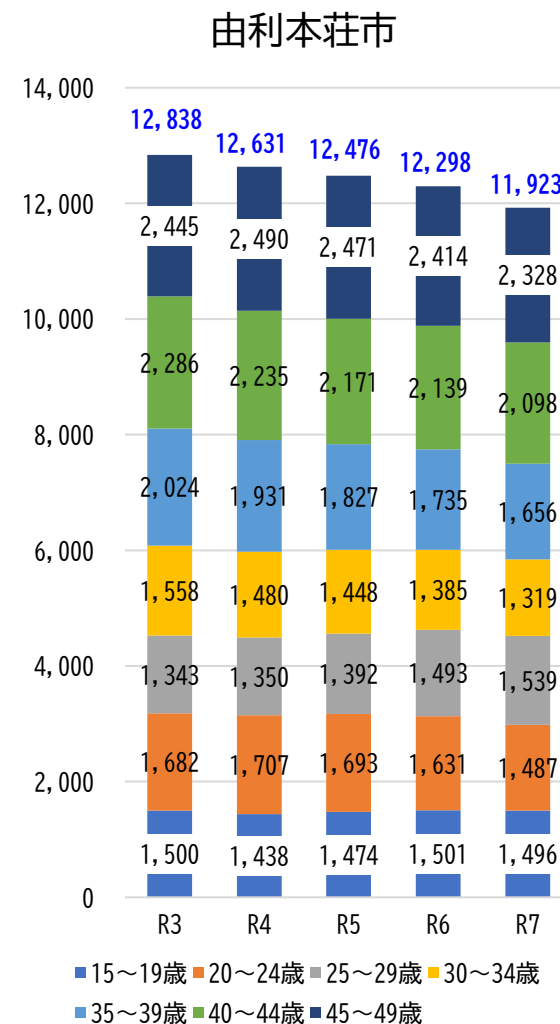
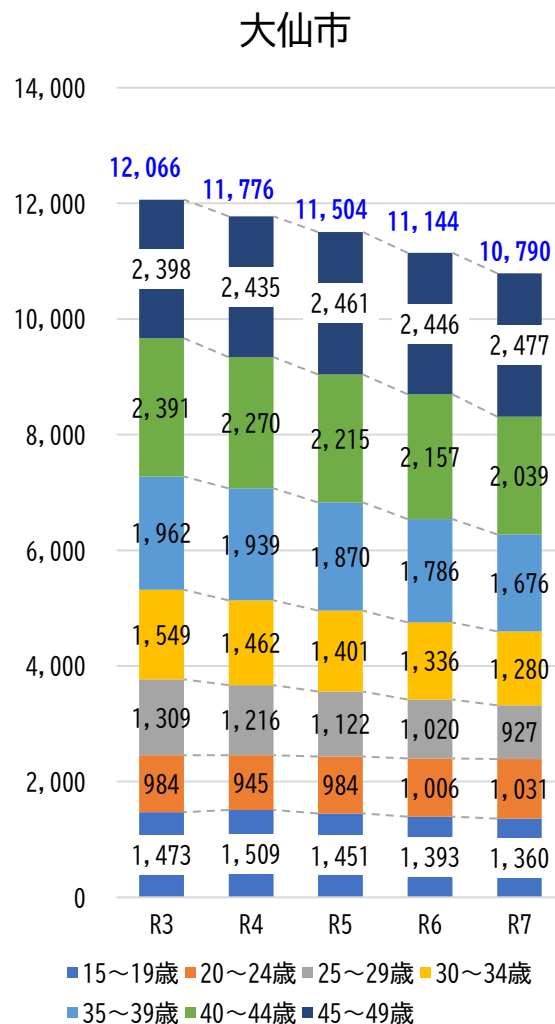
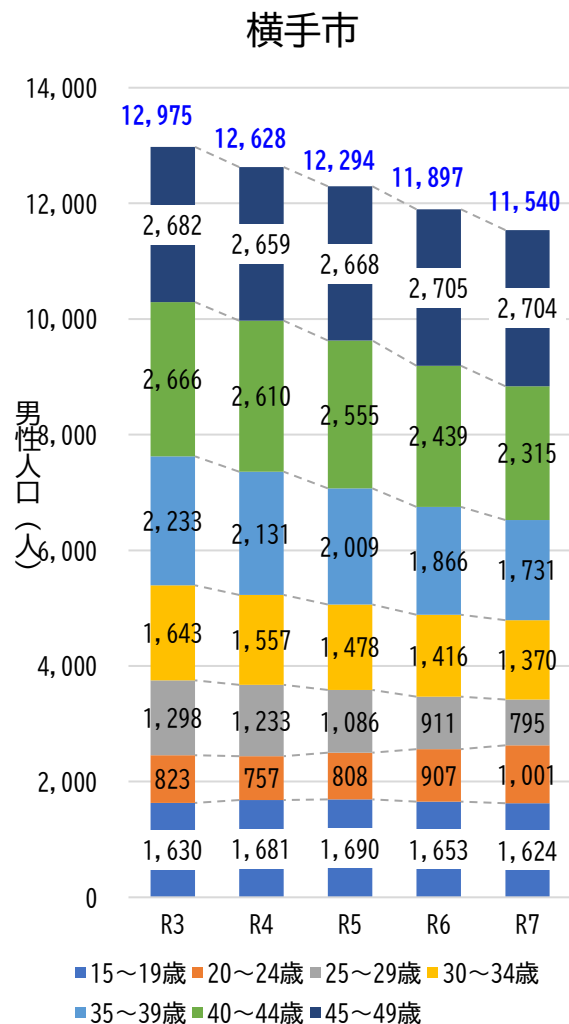


由利本荘市



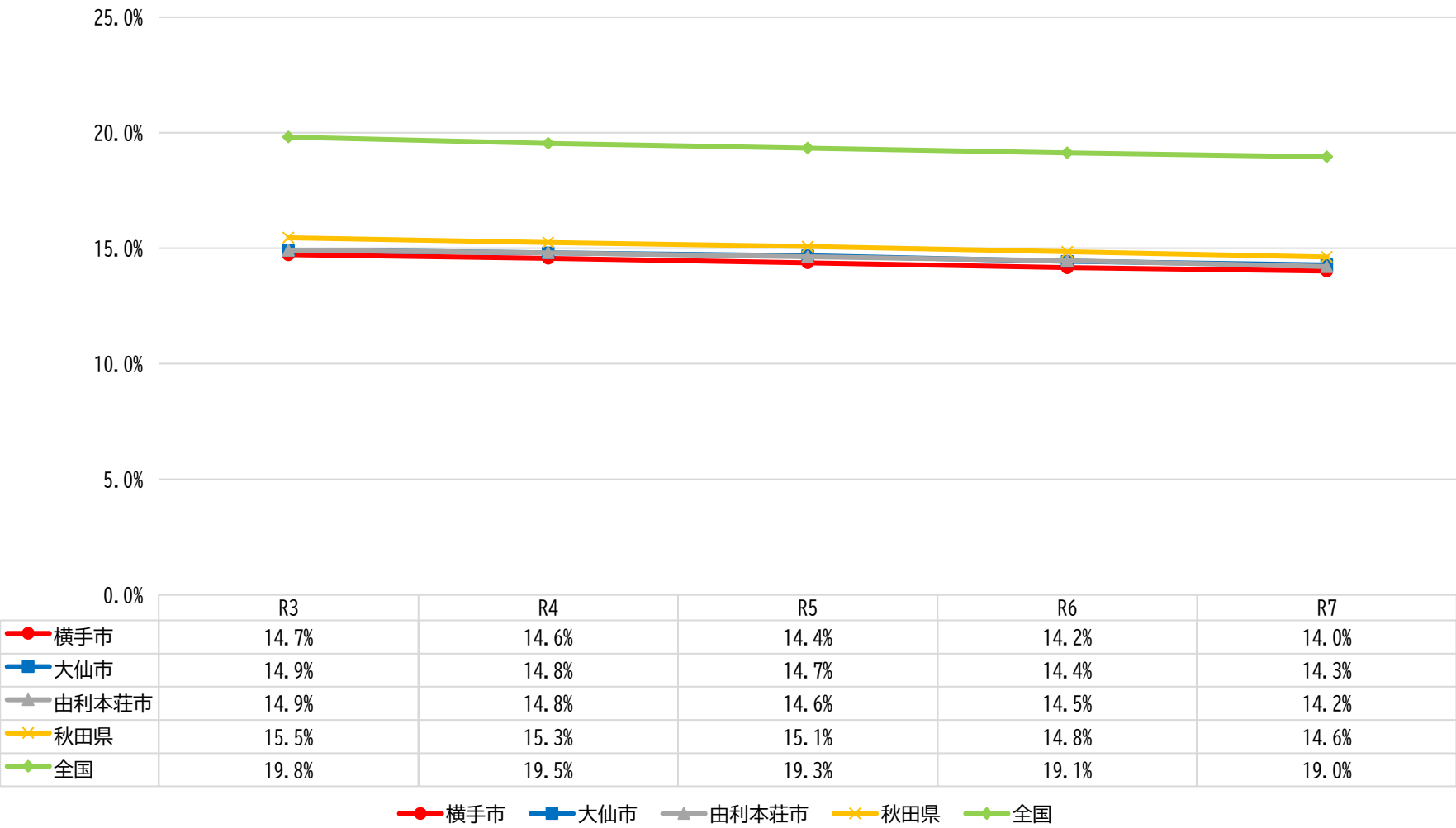
(6) 【参考】男性人口（15～49歳）の5歳区分の推移

男性人口（15～49歳）の5歳区分の推移を見ると、20～24歳と45～49歳以外で減少が続いている。
 20～24歳については、都市部の住宅価格高騰や奨学金返還支援制度などが要因と考えられる。
 45～49歳については、就職氷河期世代の地方回帰や都市部の住宅費高騰、テレワークの定着などが要因と考えられる。



(7) 女性人口（15～49歳）の総人口に対する比率

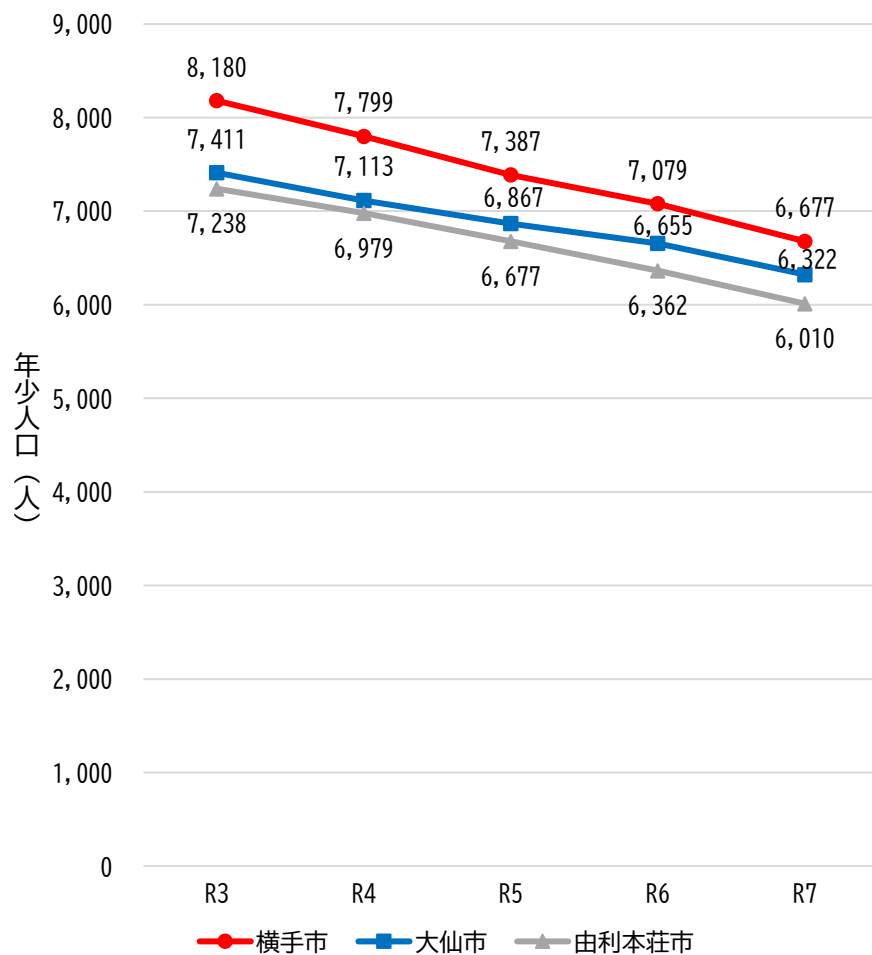
横手市の女性人口の比率は、全国、秋田県と比べると低い状況となっている。大仙市、由利本荘市も同様の傾向だが、3市の中では、横手市が一番低い。



(8) 年少人口（0～14歳）の推移

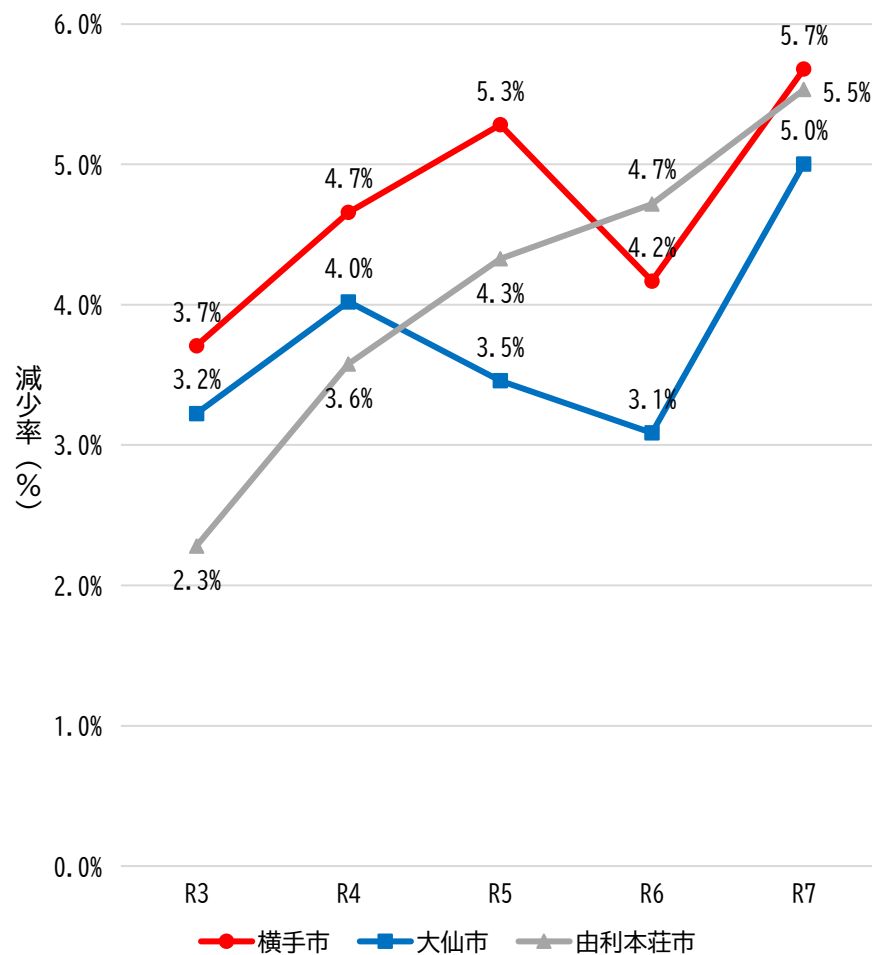
横手市の年少人口は、減少が続いており、令和7年10月1日では6,677人となっている。
大仙市及び由利本荘市においても、減少傾向となっている。

年少人口の推移



横手市の年少人口の減少率は、大仙市及び由利本荘市と比較すると高くなっている。経年変化を見ると、特に由利本荘市の減少率が高い。

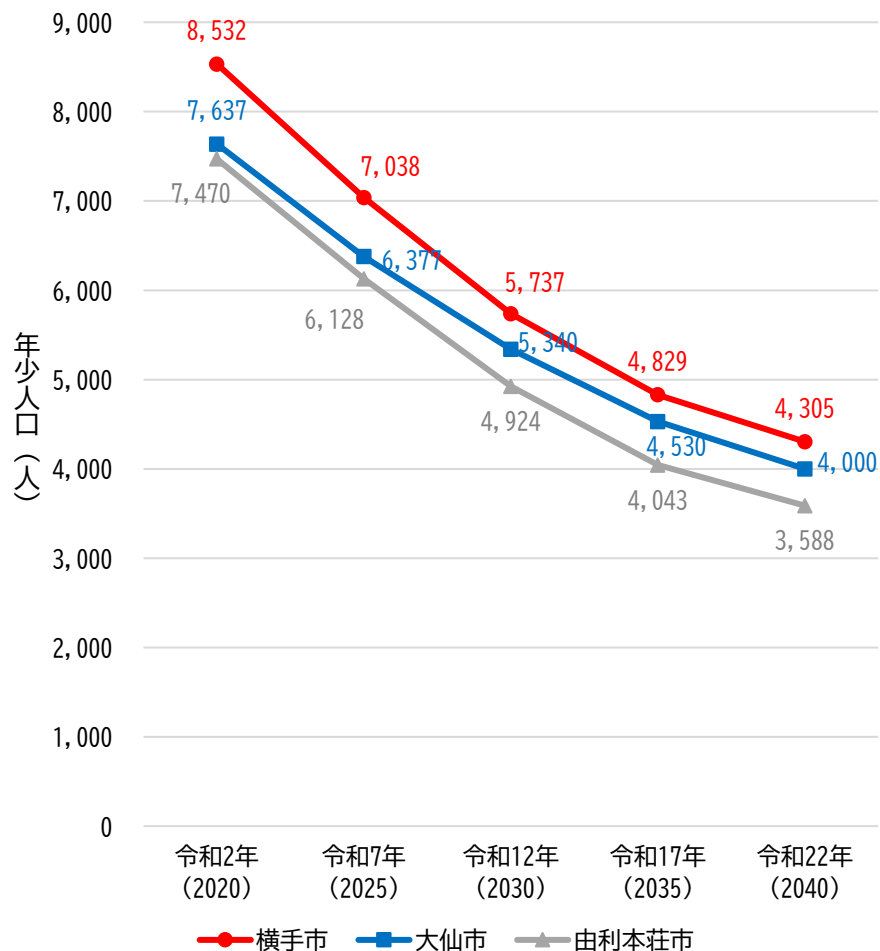
年少人口の減少率



(9) 年少人口(0～14歳)の推移(将来推計)

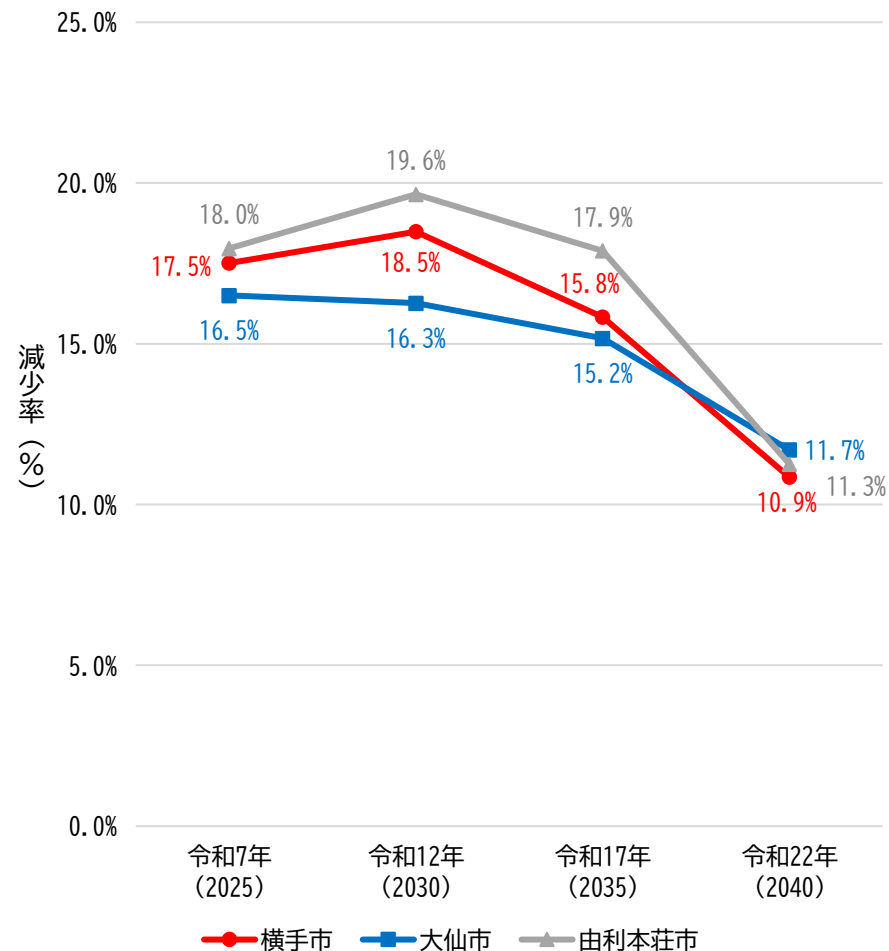
横手市の将来の年少人口は、令和12(2030)年には5,737人、大仙市で5,340人、由利本荘市で4,924人と令和2年から10年間で2,000人以上減少すると推計されている。

年少人口の将来推計



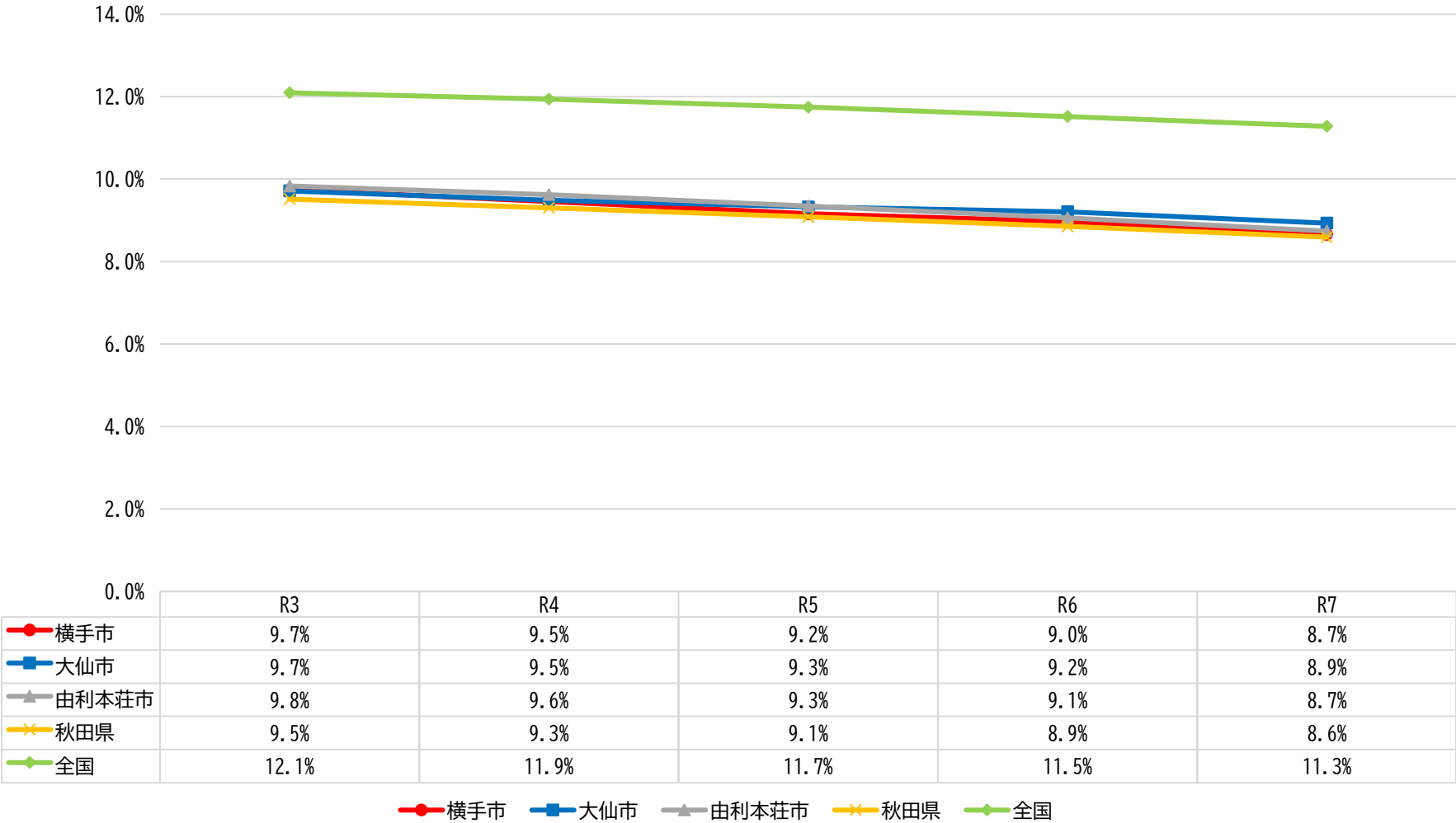
横手市の年少人口の減少率は、令和17(2035)年までは大仙市に比べると高くなっているが、令和22(2040)年は低くなっている。

年少人口の減少率(推計)



(10) 年少人口(0~14歳)の総人口に対する比率

横手市の年少人口の比率は、全国と比べると低い状況となっているが、秋田県よりは若干高い。大仙市及び由利本荘市も同様の傾向となっている。

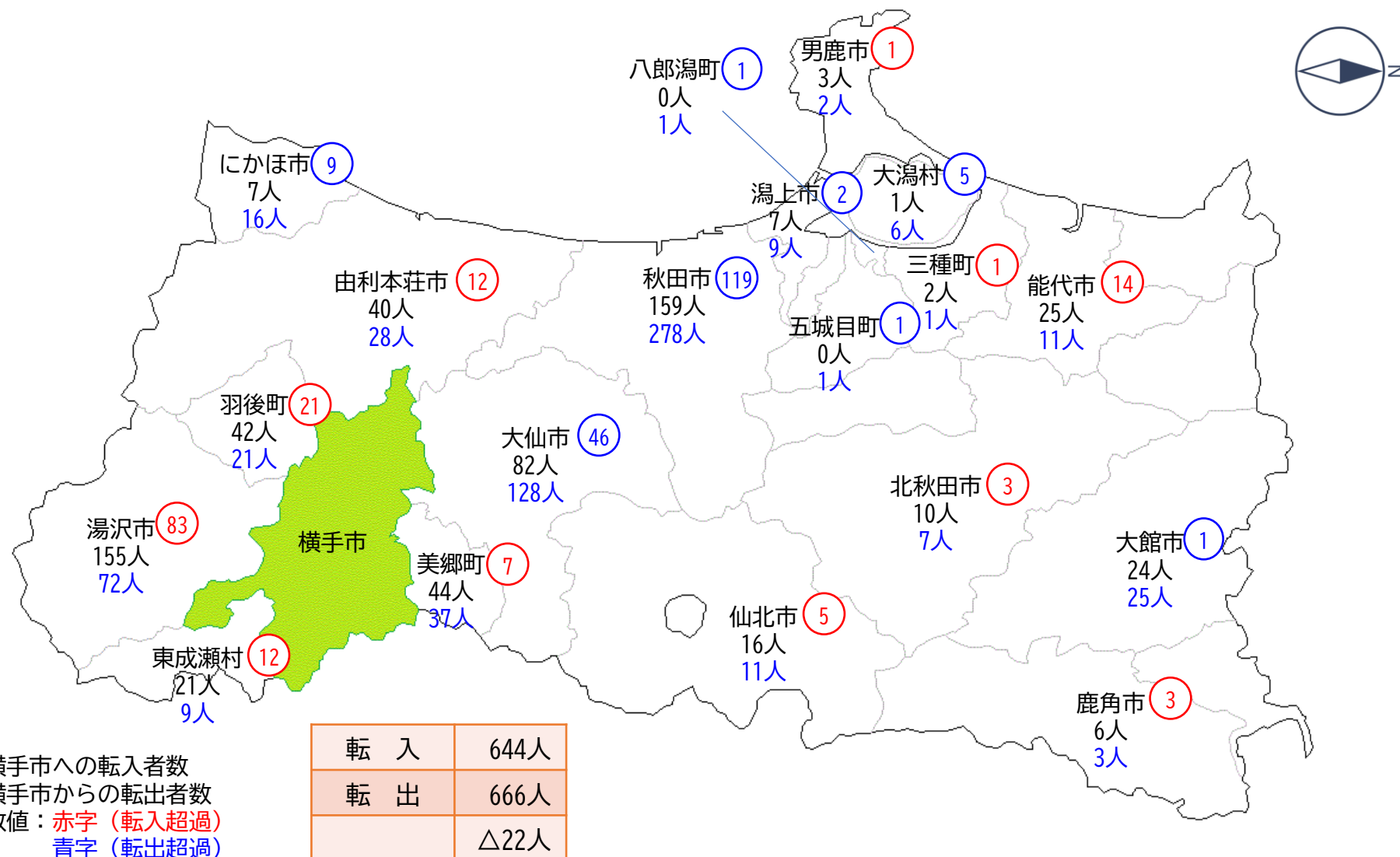


3. 社会増減分析

- (1) 転入、転出の状況（県内）横手市 34
- (2) 転入、転出の状況（県内）大仙市 35
- (3) 転入、転出の状況（県内）由利本荘市 . . . 36
- (4) 転入、転出の状況（2024）（県外含む）
横手市 37
- (5) 転入、転出の状況（2024）（県外含む）
大仙市 38
- (6) 転入、転出の状況（2024）（県外含む）
由利本荘市 39
- (7) 転入超過の状況（2024） 40
- (8) 転出超過の状況（2024） 41
- (9) 転入者数の推移 42
- (10) 転出者数の推移 43
- (11) 転入超過、転出超過の推移 44
- (12) 県内の転入超過（R4横手市）の年齢別の状況
とR5の比較 45

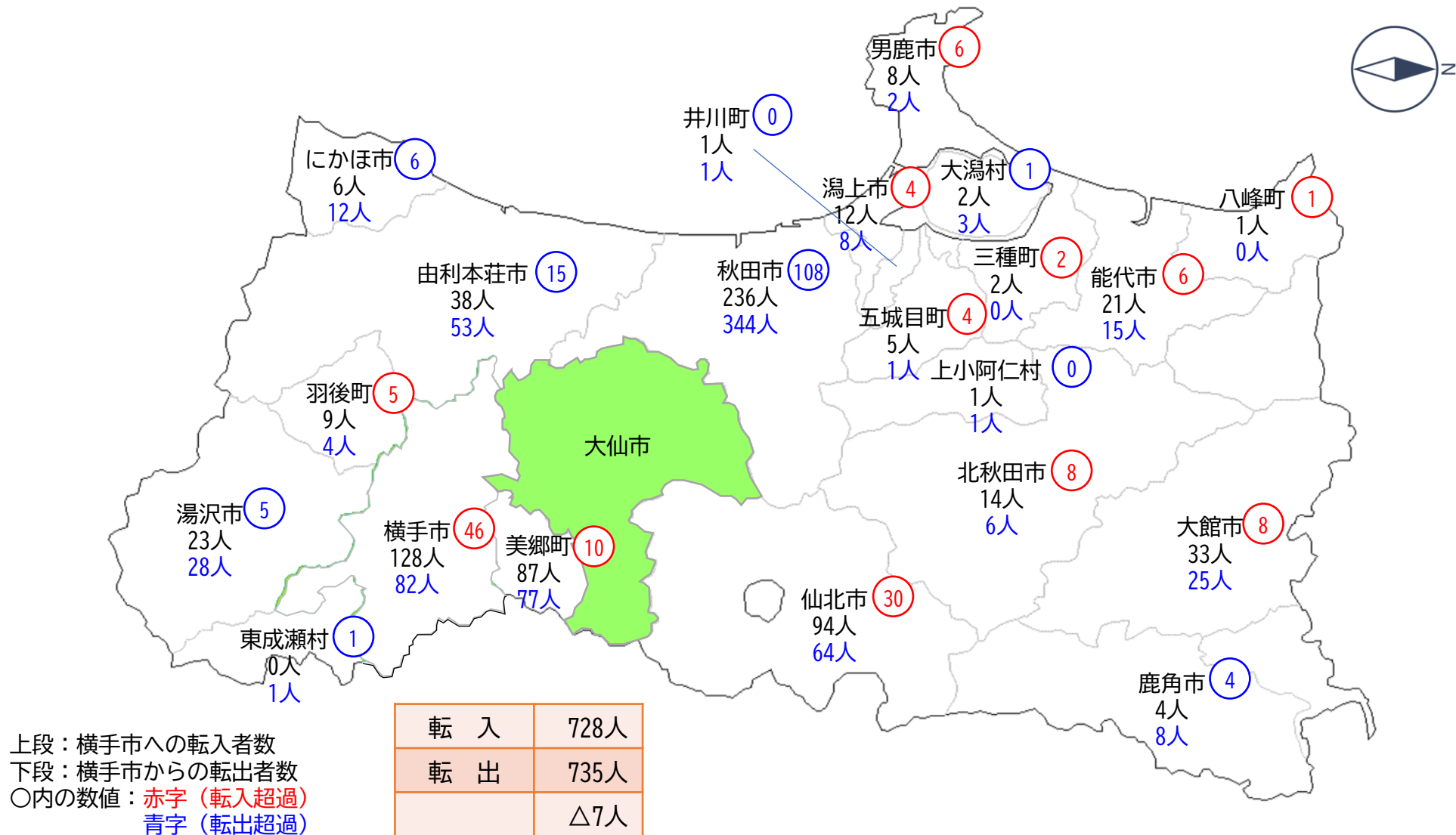
(1) 転入、転出の状況（県内）横手市

県内からの転入者を見ると、秋田市、湯沢市、大仙市が多くなっている。転出先も、同様となっており、県内では転出超過となっている。



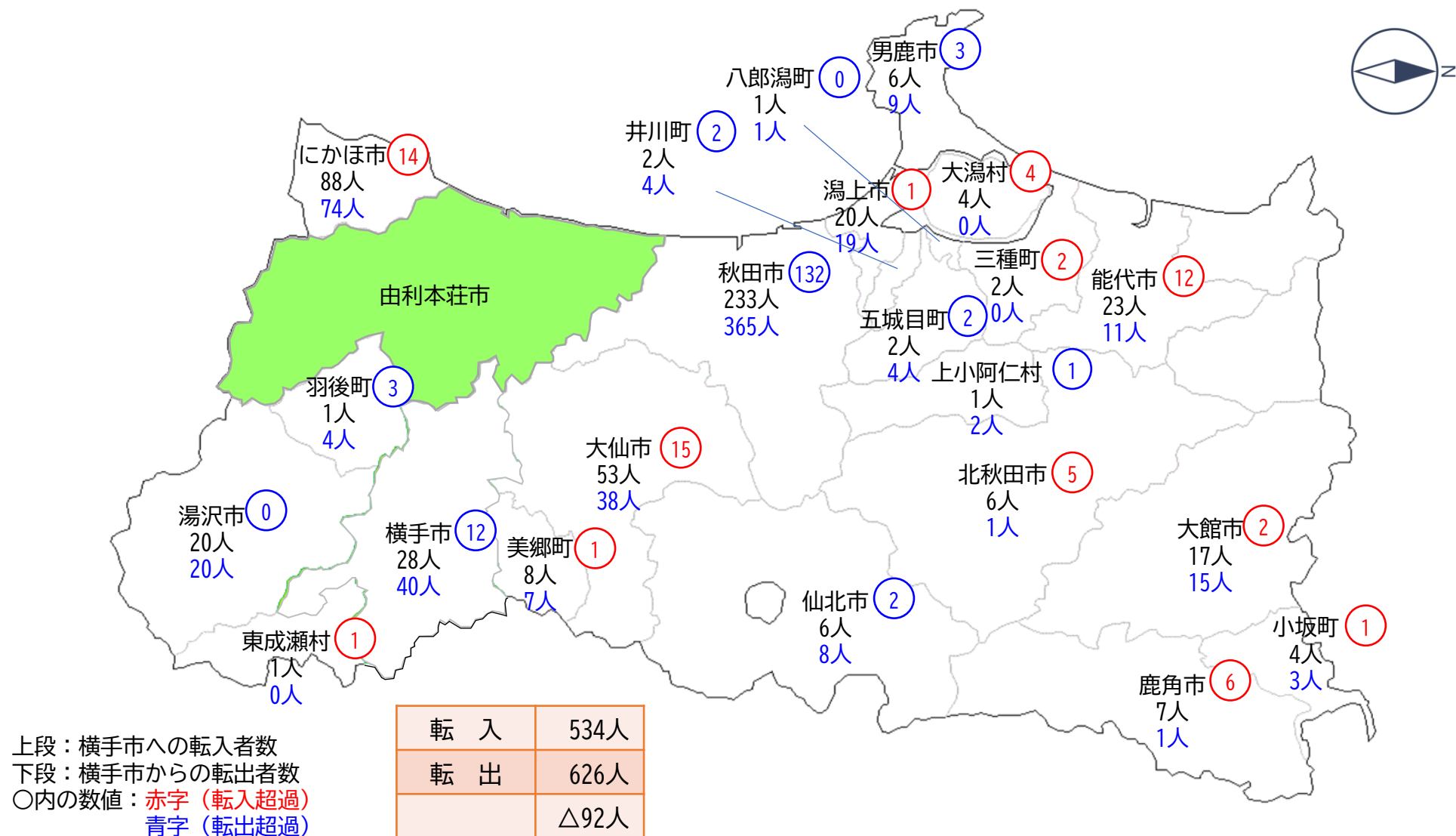
(2) 転入、転出の状況（県内）大仙市

大仙市においては、県内からの転入者を見ると、秋田市、横手市、仙北市が多くなっている。転出先は、秋田市、横手市、美郷町となっており、県内では転出超過となっている。



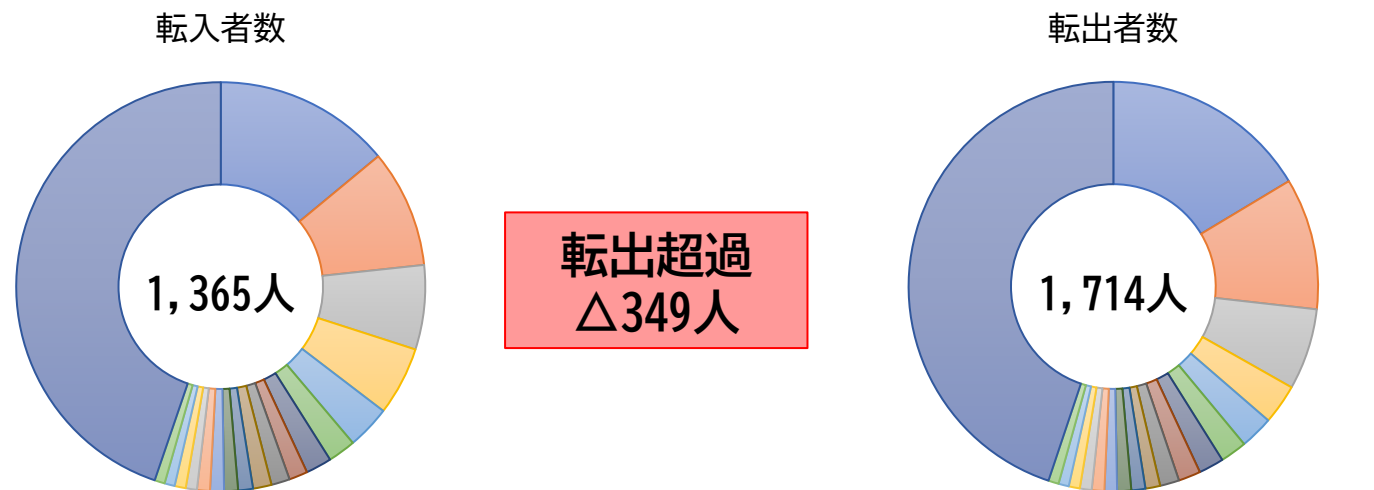
(3) 転入、転出の状況（県内） 由利本荘市

由利本荘市においては、県内からの転入者を見ると、秋田市、にかほ市、大仙市が多くなっている。転出先は、秋田市、にかほ市、横手市になっており、県内では転出超過となっている。



(4) 転入、転出の状況 (2024) (県外含む) 横手市

転入者の状況を見ると、県内市町村のほか、仙台市や横浜市からの転入が多い。転出先も類似していることから、進学や就職、転勤による影響が大きいものと考えられる。



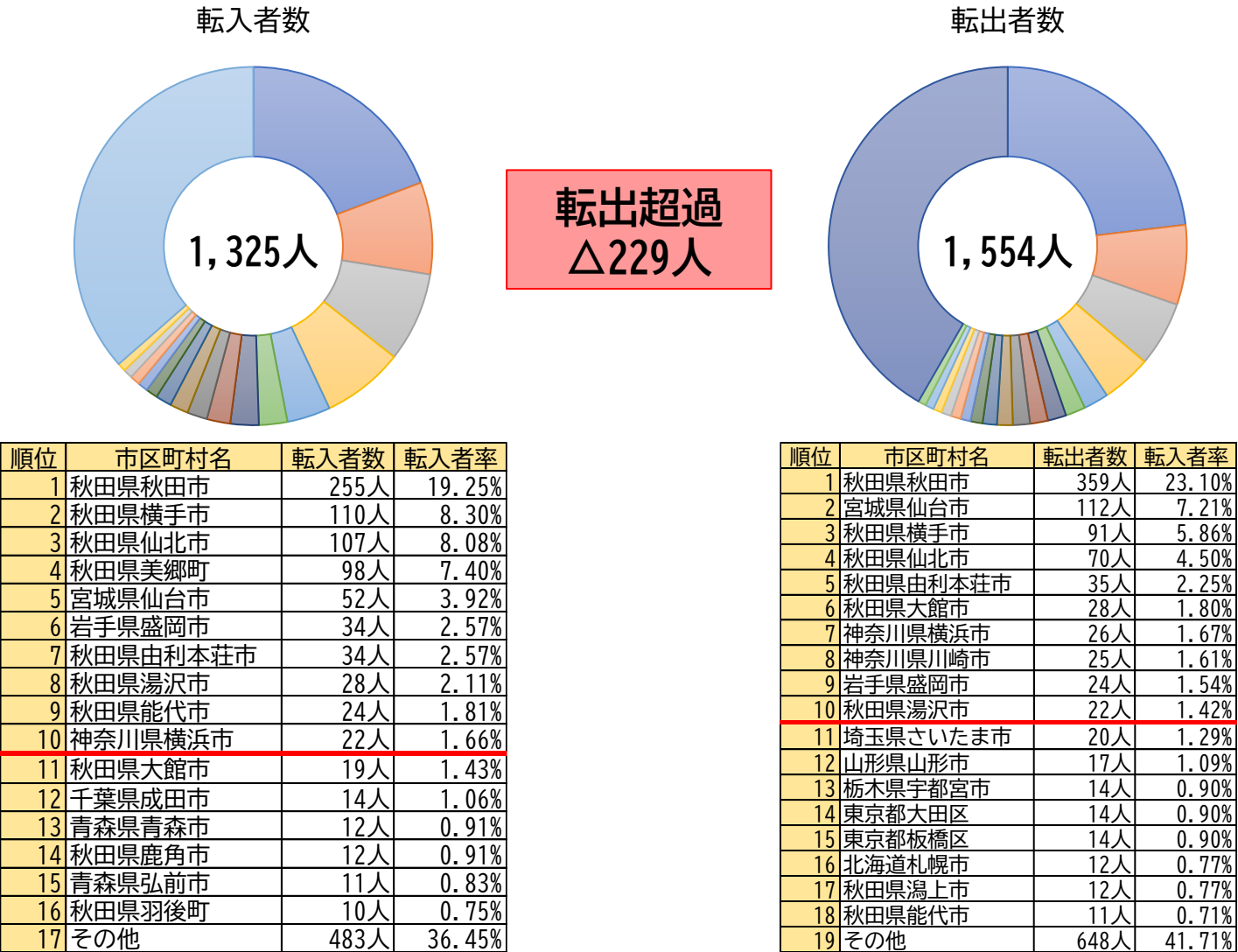
転出超過
△349人

順位	市区町村名	転入者数	転入者率
1	秋田県秋田市	191人	13.99%
2	秋田県湯沢市	127人	9.30%
3	秋田県大仙市	91人	6.67%
4	宮城県仙台市	74人	5.42%
5	秋田県由利本荘市	47人	3.44%
6	神奈川県横浜市	30人	2.20%
7	秋田県大館市	28人	2.05%
8	岩手県盛岡市	20人	1.47%
9	岩手県奥州市	20人	1.47%
10	秋田県能代市	20人	1.47%
11	北海道札幌市	16人	1.17%
12	千葉県成田市	15人	1.10%
13	神奈川県川崎市	15人	1.10%
14	岩手県北上市	14人	1.03%
15	青森県青森市	12人	0.88%
16	秋田県仙北市	12人	0.88%
17	秋田県鹿角市	11人	0.81%
18	福島県福島市	11人	0.81%
19	その他	611人	44.76%

順位	市区町村名	転出者数	転入者率
1	秋田県秋田市	281人	16.39%
2	宮城県仙台市	178人	10.39%
3	秋田県大仙市	110人	6.42%
4	秋田県湯沢市	54人	3.15%
5	秋田県由利本荘市	45人	2.63%
6	岩手県盛岡市	36人	2.10%
7	神奈川県横浜市	34人	1.98%
8	秋田県美郷町	30人	1.75%
9	埼玉県さいたま市	26人	1.52%
10	秋田県大館市	20人	1.17%
11	青森県青森市	19人	1.11%
12	神奈川県川崎市	19人	1.11%
13	北海道札幌市	17人	0.99%
14	秋田県湯上市	17人	0.99%
15	新潟県新潟市	16人	0.93%
16	東京都大田区	15人	0.88%
17	秋田県にかほ市	14人	0.82%
18	東京都杉並区	14人	0.82%
19	その他	769人	44.85%

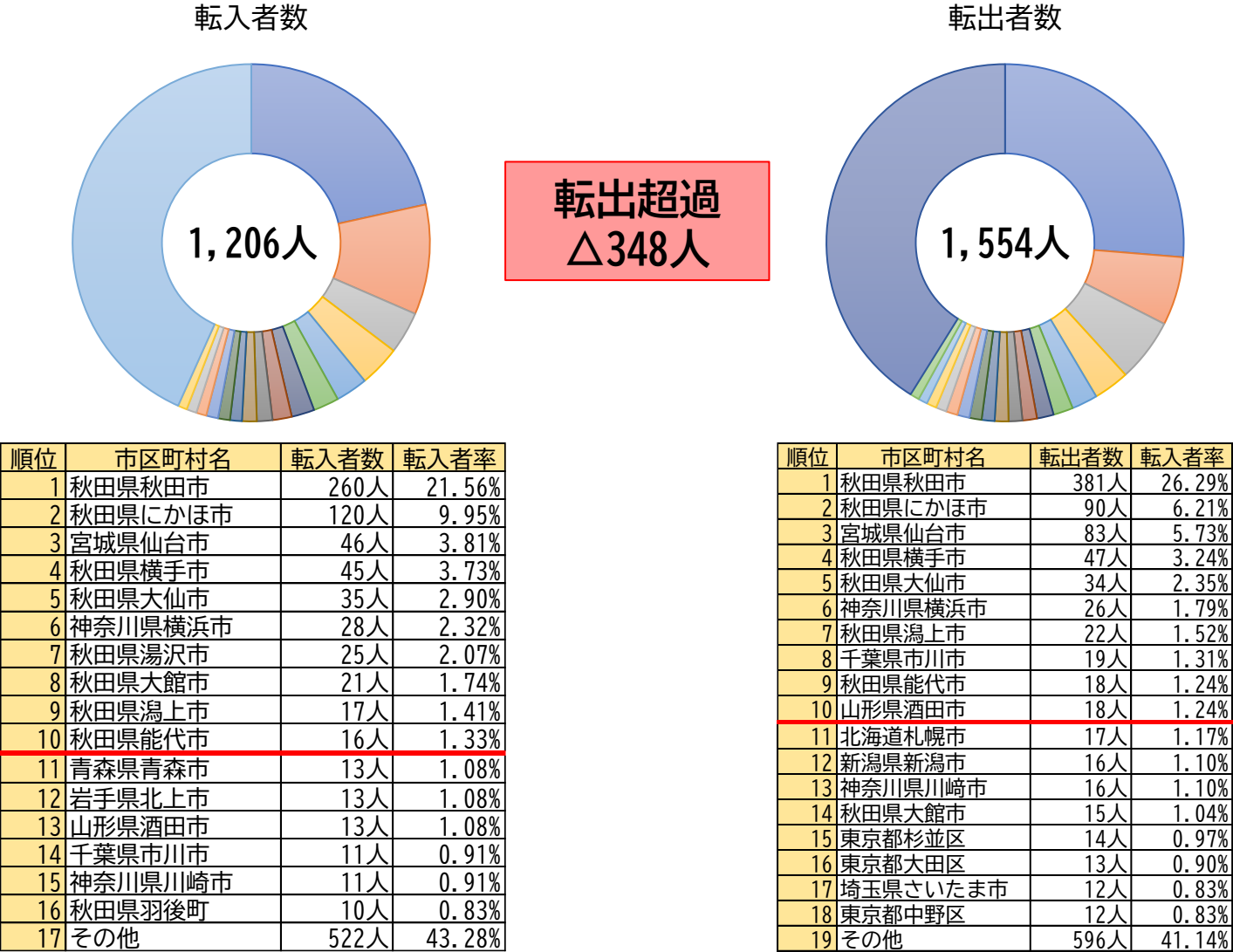
(5) 転入、転出の状況 (2024) (県外含む) 大仙市

大仙市の転入者の状況を見ると、県内市町村のほか、仙台市や横浜市からの転入が多い。転出先も類似していることから、横手市同様に進学や就職、転勤による影響が大きいものと考えられる。



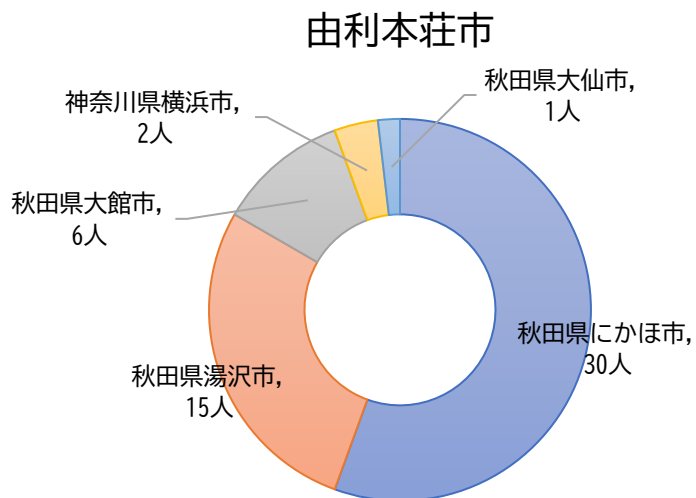
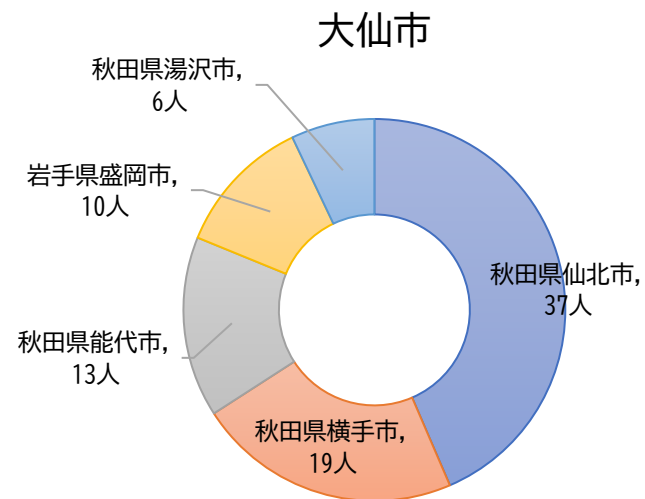
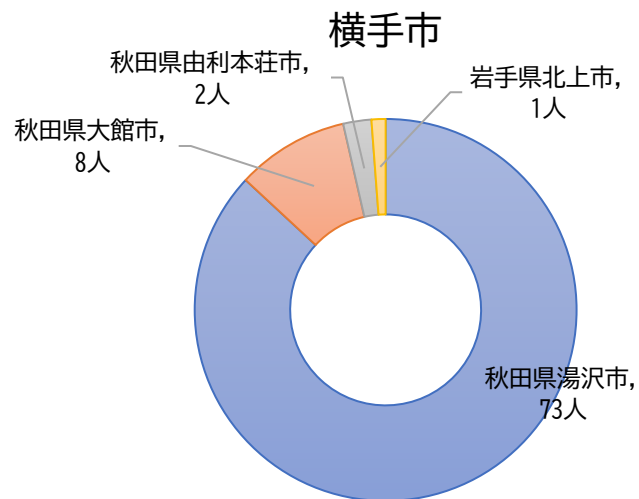
(6) 転入、転出の状況 (2024) (県外含む) 由利本荘市

転入者の状況を見ると、県内市町村のほか、仙台市や横浜市からの転入が多い。転出先も類似していることから、進学や就職、転勤による影響が大きいものと考えられる。



(7) 転入超過の状況 (2024)

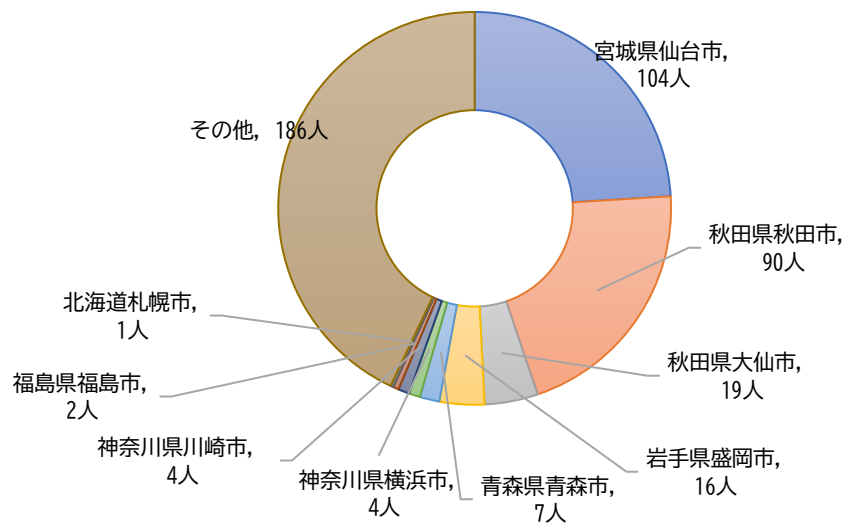
転入超過先の大半は、隣接する市町村となっている。



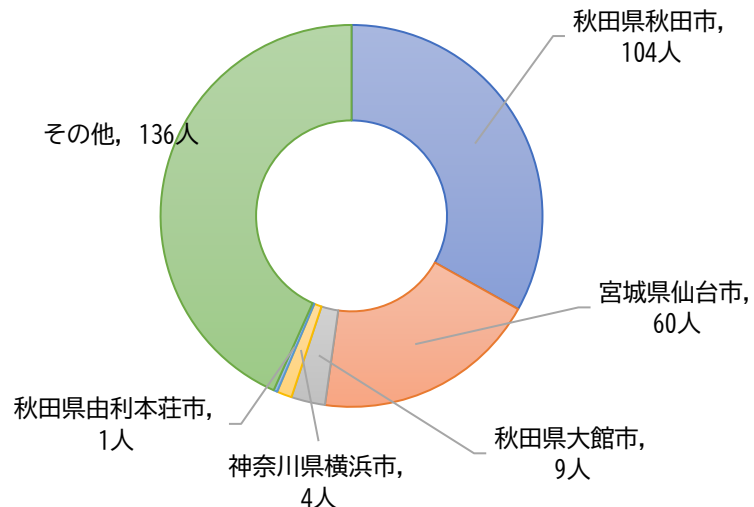
(8) 転出超過の状況 (2024)

転出超過先は、秋田市、仙台市が多く、関東圏は比較的少なくなっている。

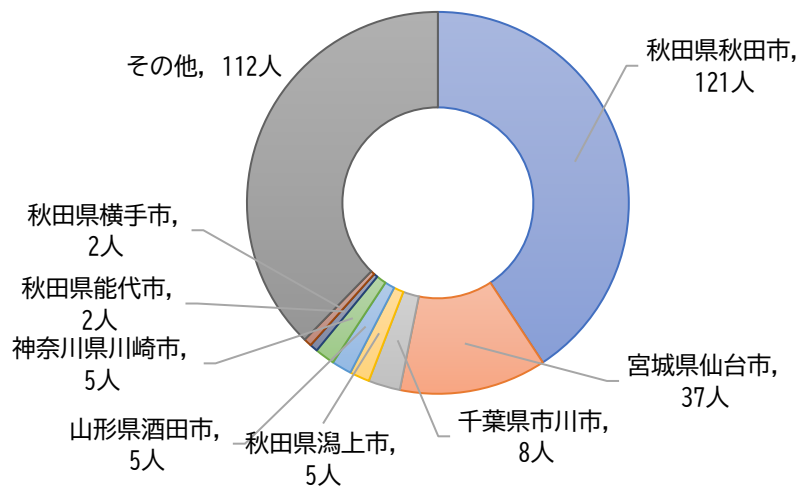
横手市



大仙市

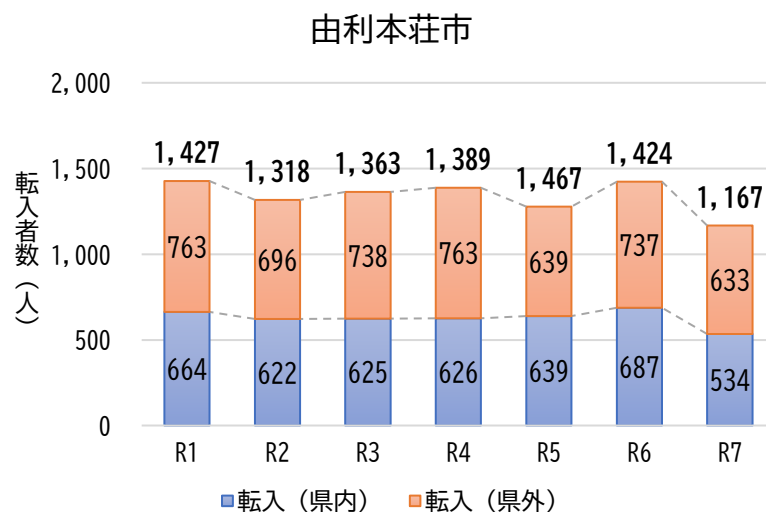
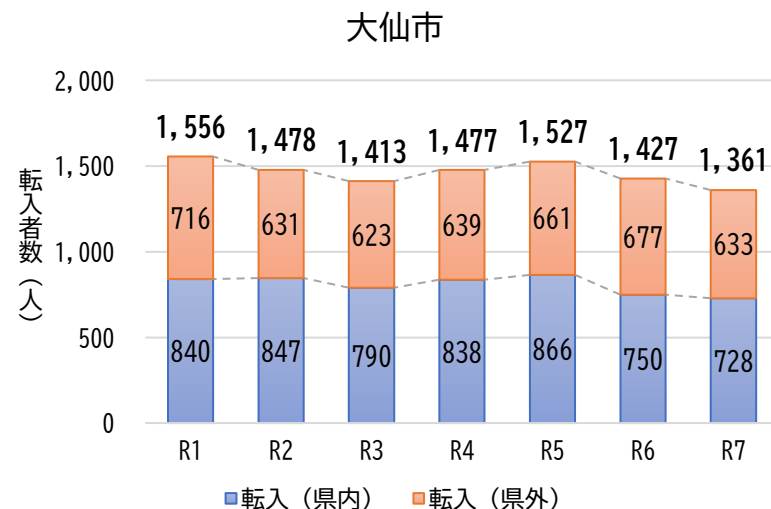
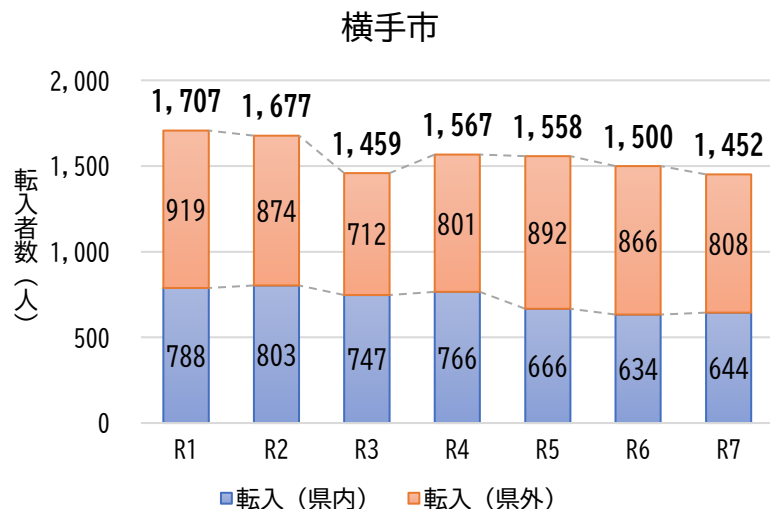


由利本荘市



(9) 転入者数の推移

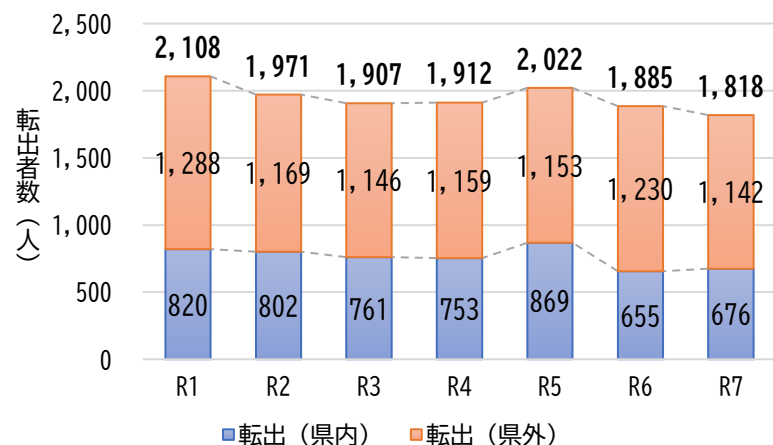
横手市の転入者数の推移をみると、県内からの転入より、県外からの転入が多い。大仙市及び由利本荘市と比較しても、県外からの転入が多いが、大仙市との比較では、総転入者数は多いものの、県内からの転入者が少ない状況である。



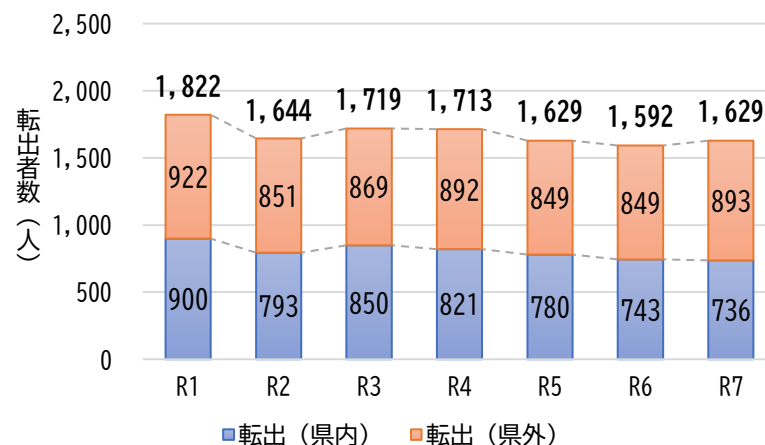
(10) 転出者数の推移

横手市の転出者数の推移をみると、県内への転出より、県外への転出が多い。大仙市及び由利本荘市と比較しても、県外への転出が多く、総転出者数については、人口規模の関係から、横手市は大仙市及び由利本荘市より多くなっている。

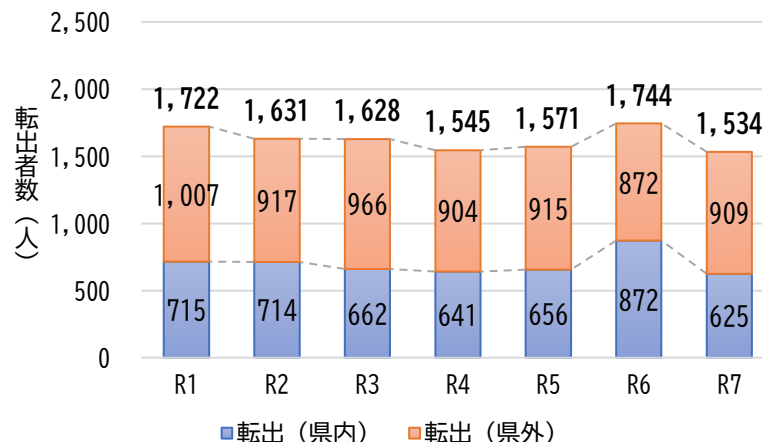
横手市



大仙市

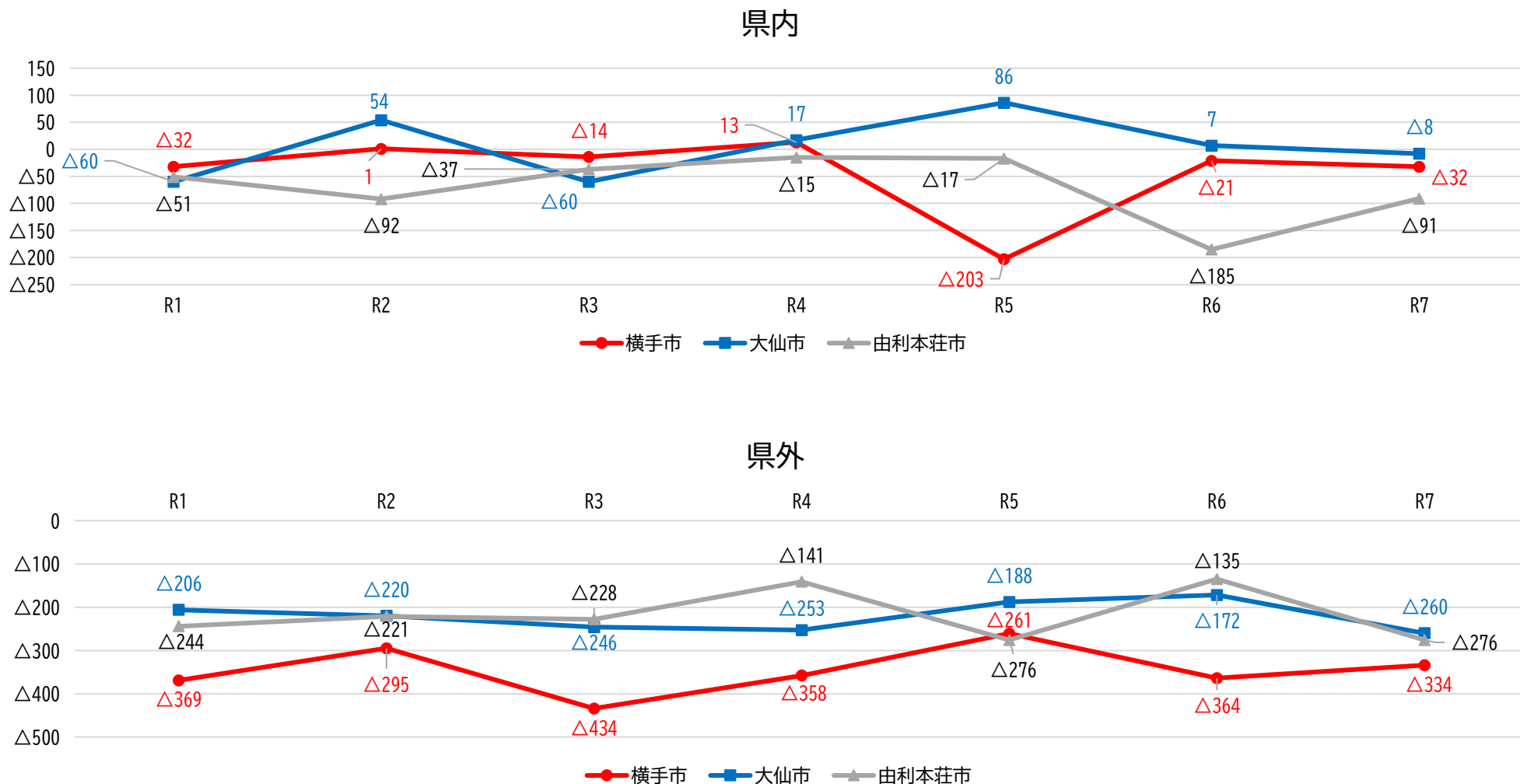


由利本荘市



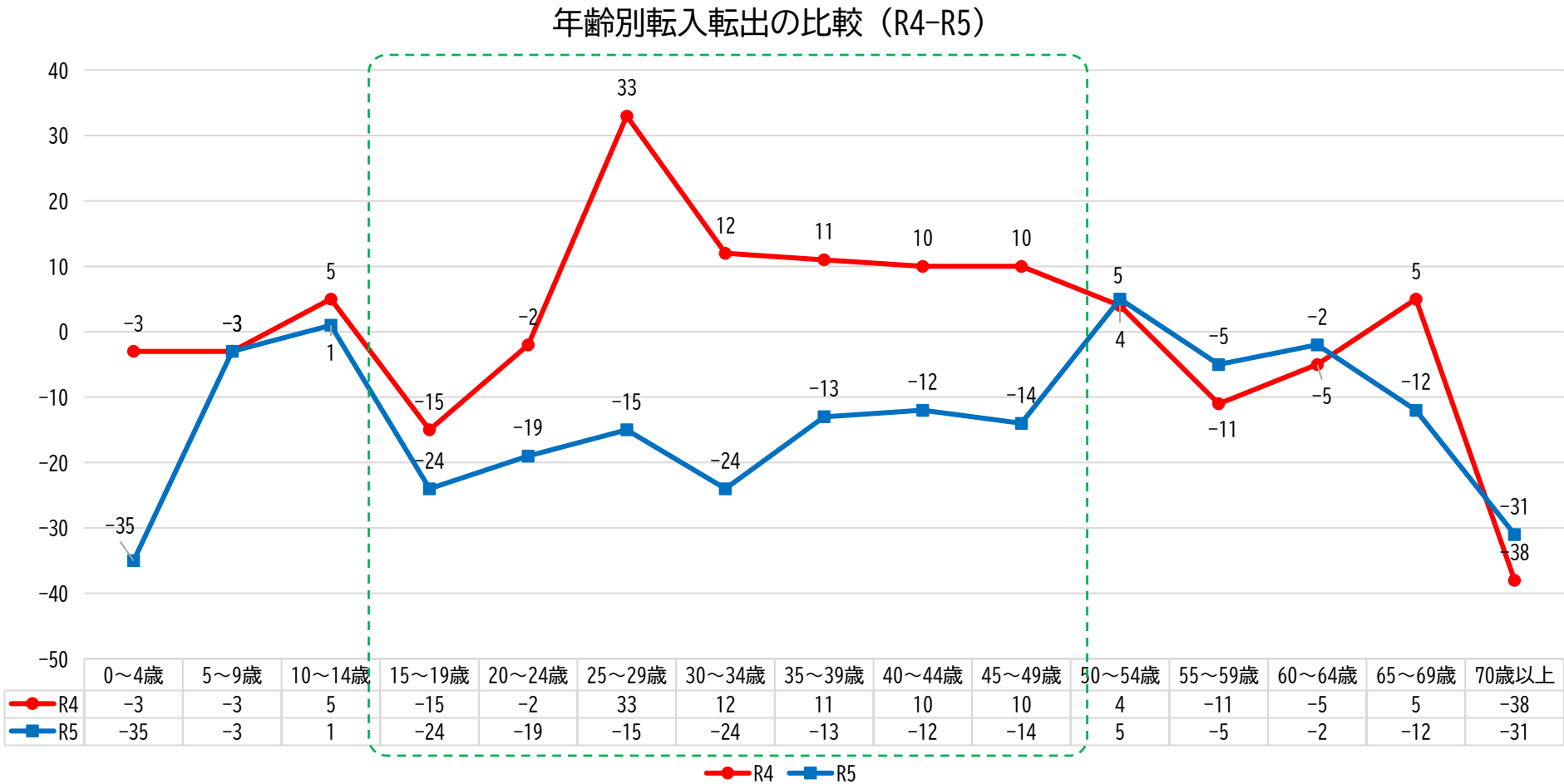
(11) 転入超過、転出超過の推移

横手市の転入超過（転出者より転入者が多い）、転出超過（転入者より転出者が多い）の推移を見ると、県内ではR2、R4以外では転出超過となっている（R4の転入超過分析は次ページ）。大仙市においては、転入超過の年が多く、由利本荘市では、一貫して転出超過となっている。県外では、3市とも転出超過の状況が続いている。



(12) 県内の転入超過（R4横手市）の年齢別の状況とR5の比較

令和4年と5年を年齢別に比較すると、15～49歳の間で差が見られ、前ページで、県内での転出超過が多かったことから、企業移転や転勤等があったのではないかと推測する。



4. その他

(1) 秋田県内で住みやすい自治体ランキング	・ 47
(2) 秋田県内で住みやすい駅ランキング	・・・ 48
(3) 冬注目の自治体ランキング(2025)	・・・ 49
(4) 秋田県の市で「老後に住みたい」と思う市 ランキング(2025)	・・・・・・・・・・ 50
(5) シティブランド・ラインキング2025 (北海道・東北)	・・・・・・・・・・ 51

(1) 秋田県内で住みやすい自治体ランキング

秋田県内で住みやすい自治体ランキングでは、2025年時点の横手市の順位は9位となっている。

秋田県民に聞く！秋田県内で住みやすい自治体ランキング

順位	自治体名	点数	前回順位
1	秋田市 (あきたし)	127点	第1位→
2	湯沢市 (ゆざわし)	30点	第5位↑
3	由利本荘市 (ゆりほんじょうし)	25点	第6位↑
4	潟上市 (かたがみし)	23点	第8位↑
5	男鹿市 (おがし)	21点	第4位↓
6	大仙市 (だいせんし)	18点	第3位↓
7	鹿角市 (かづのし)	17点	第10位↑
8	大館市 (おおだてし)	14点	第6位↓
9	横手市 (よこてし)	12点	第2位↓
10	能代市 (のしろし)	11点	第8位↓

アンケート概要
調査方法：インターネット
リサーチ
対象：秋田県に住んでいる
18～49歳の男女
調査期間：2025年5月
回答サンプル数：81人

得点の算出方法
・あなたがお住まいの都道府県内
で、住みやすいと思う自治体はど
こですか？
1 番住みやすい自治体→3 点
2 番目に住みやすい自治体→2 点
3 番目に住みやすい自治体→1 点

(2) 秋田県内で住みやすい駅ランキング

秋田県内で住みやすい駅ランキングでは、横手駅と十文字駅が、上位10以内に入っている。

秋田県民に聞く！秋田県内で住みやすい駅ランキング

順位	駅名	路線名	点数	前回順位
1	秋田駅 (あきたえき)	秋田新幹線 JR奥羽本線 男鹿線・羽越本線	116点	第1位→
2	土崎駅 (つちぎえき)	JR奥羽本線 男鹿線	13点	第4位↑
3	大館駅 (おおだてえき)	JR奥羽本線 花輪線	12点	10位圏外↑
3	横手駅 (よこてえき)	JR奥羽本線 北上線	12点	第3位→
5	追分駅 (おいわけえき)	JR奥羽本線 男鹿線	11点	第8位↑
5	十文字駅 (じゅうもんじえき)	JR奥羽本線	11点	10位圏外↑
7	大曲駅 (おおまがりえき)	秋田新幹線 JR奥羽本線 田沢湖線	10点	第2位↓
8	羽後岩谷駅 (うごいわえき)	JR羽越本線	8点	10位圏外↑
8	羽後本荘駅 (うごほんじょうえき)	JR羽越本線 由利高原鉄道 烏海山ろく線	8点	第5位↓
8	角館駅 (かくのだてえき)	秋田新幹線 JR田沢湖線 秋田内陸縦貫鉄道 秋田内陸線	8点	第10位↑

アンケート概要

調査方法：インターネット
リサーチ

対象：秋田県に住んでいる
18～49歳の男女

調査期間：2025年5月
回答サンプル数：81人

得点の算出方法

・あなたが住まいの都道府県内で、住みやすいと思う街（駅）はどこですか？

1番住みやすい駅→3点

2番目に住みやすい駅→2点

3番目に住みやすい駅→1点

(3) 冬の魅力度自治体ランキング (2025)

冬注目の自治体ランキングでは、全国1,741自治体のうち、第3位となっている。

- 第1位：北海道小樽市
- 第2位：岐阜県白川村
- 第3位：秋田県横手市
- 第4位：富山県氷見市
- 第5位：青森県八戸市
- 第6位：長崎県平戸市
- 第7位：佐賀県嬉野市
- 第8位：石川県金沢市
- 第9位：茨城県大洗町
- 第10位：鳥取県鳥取市

第3位：秋田県横手市

冬の風景19点・食の魅力19点・特別体験20点・完成度20点・旅の深み19点 合計97点



横手市観光おもてなし課 提供

450年の伝統が宿る「かまくら」。雪の中で水神様と向き合う神聖な夜

横手市は、日本を代表する小正月行事「かまくら」による独自の文化性と体験価値で3位に選ばれました。2026年2月13日・14日に開催されるこの行事は、単なる観光イベントではなく、水神様を祀る信仰に基づいた伝統行事です。高さ約3メートルの巨大なかまくらが市内に約60基並び、中で子どもたちが甘酒やお餅を振る舞う姿は、北国の温かなホスピタリティを象徴しています。

また、夜の横手川沿いに無数に並ぶ「ミニかまくら」の灯りは、幻想的な光の海を作り出します。手作りの温もりに満ちた冬の風景は、デジタルに囲まれた世代にとって、最も贅沢な癒やし体験となるでしょう。

評価軸の詳細

評価軸	最大配点	主な評価項目
① 冬景色・季節美	20点	雪、霧、氷など、冬特有の気象現象が地域固有の風景（街並みや集落）と調和し、唯一無二の情緒を創出しているかを評価。
② 冬の食の魅力	20点	冬に旬を迎える食材や、寒さを凌ぐために生まれた保存食・鍋料理など、地域の暮らしに根ざした食文化の深さを評価。
③ 冬の特別体験	20点	伝統行事、氷結現象の観察、雪中アクティビティなど、その時期・その場所では得られない体験価値の希少性を評価。
④ 冬の旅の完成度	20点	冬季のアクセス利便性、混雑を避けた滞在のしやすさ、温泉や宿泊設備の整った宿泊施設の充実度を総合的に判断。
⑤ ストーリー性・文化性	20点	なぜその土地でその冬の過ごし方が受け継がれてきたのか。歴史的背景や地域コミュニティの想いなど、旅の「深み」を評価。

(4) 秋田県の市で「老後に住みたい」と思う市ランキング（2025）

秋田県の市で「老後に住みたい」と思う市ランキングでは、横手市が第2位となっている。

秋田県の市で「老後に住みたい」 と思う市ランキング		AllAbout
順位	選択肢	票数
1	秋田市	166
2	横手市	22
3	男鹿市	19
4	能代市	14
5	大館市	13
5	湯沢市	13
7	由利本荘市	11

回答者からは、「秋田県の中で“都市性と田舎性のバランス”が取れている」（50代男性/神奈川県）、「住民の人柄が良いと感じるから」（30代女性/静岡県）、「生活コストが比較的安く、自然や田園風景に囲まれたおちついた生活ができそうだから」（40代男性/静岡県）、「自然が豊かで静か、生活に必要な施設も揃っており、穏やかな老後を過ごせそうだから」（30代女性/東京都）などの声があった。

※All Aboutニュース編集部 独自調査（n=250）より作成
※上位7位をランキング化 ※複数回答（MA）

調査概要

調査日：2025年10月14～15日

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国10～60代の男女250人（10代1人、20代56人、30代89人、40代51人、50代47人、60代6人）

※本調査は全国250人を対象に実施したもので、結果は回答者の意見を集計したものであり、全体の意見を断定的に示すものではありません

(5) シティブランド・ランキング2025（北海道・東北）

シティブランド・ランキング2025の北海道・東北エリアでは、横手市は10位となっている。

北海道・東北エリアランキングTOP10

エリア順位	自治体名（都道府県名）	総合スコア	サンプル数	総合順位
1	札幌市（北海道）	62.2	442	28
2	旭川市（北海道）	60.5	54	52
3	須賀川市（福島県）	59.2	20	78
4	名取市（宮城県）	58.2	41	90
5	仙台市（宮城県）	58.0	312	95
6	函館市（北海道）	56.5	68	128
7	盛岡市（岩手県）	55.8	109	141
8	小樽市（北海道）	55.6	27	143
9	白河市（福島県）	54.8	28	162
10	横手市（秋田県）	54.4	33	168

※総合スコアの数値は偏差値（資料：新・公民連携最前線）

今回の調査では、全国のビジネスパーソン（有職者＝働く世代）を対象に、実際に住んでいる／直近で住んでいた街（全国の市および東京23区）に対する「住みよさ」についてウェブ調査を実施。その結果を基に、「シティブランド・ランキンゲー住みよい街2025ー」のランキングを作成した。2万1127人のビジネスパーソン（有職者＝働く世代）から有効回答を得た。

ランキングの作成に際しては、「安心・安全」「快適な暮らし」「生活の利便性」「生活インフラ」「医療・介護」「子育て」「自治体の運営」「街の活力」の8分野、合計39の評価項目について調査・集計。現在の居住者と直近の居住者による回答者の合計が20人以上となる335市区のデータを基にした。